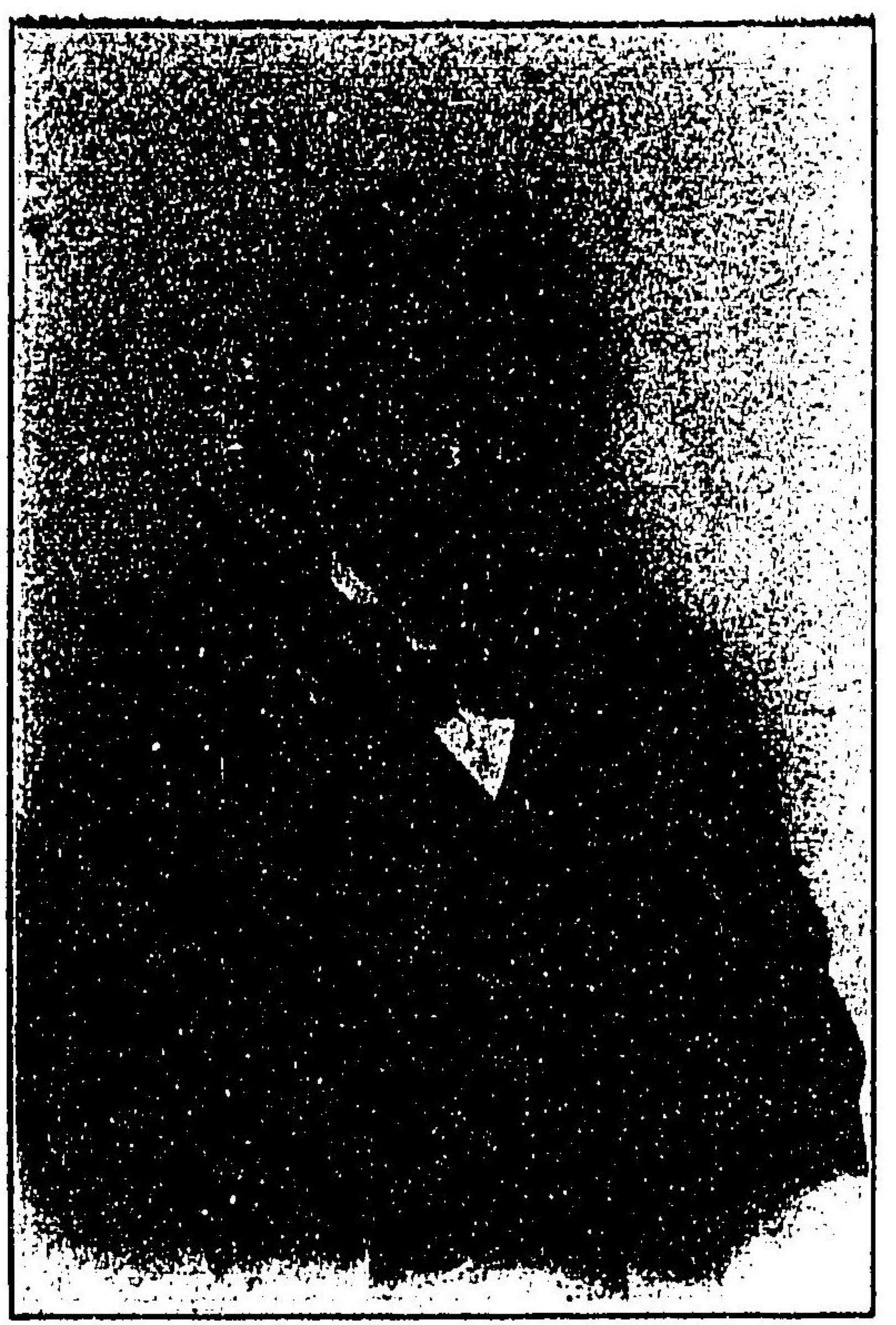


有珠郡伊達村 高橋力治氏

室蘭大觀



氏は宮城縣涌谷町の明治十三年鈴本大亮男の紹介に依り職を巡査に任じて渡す後職を現住地に移る新開地に於ける開業したる有望なるを見て開業したるに果せる哉盛況を呈したるは三十年更に雜貨店を開業し是亦店頭顧客の絶ゆることなく益々隆盛に赴きたるに不幸にして四十年紋鼈市街大火の變に遭ひたると再築して料理店と云ふ本亭は有珠郡伊達村に於ける唯一の料理店にして旅情を慰むる紳士等來りて一棧を今や巨資を蓄へ公共及慈善事業に資を投じて惜まざるば木林賞状等を受けたるもの枚舉に遑わらず三十七八年戦役の際日本赤十字社特別社員となり又國債に應じて國民奉公の一端をも盡せり

室蘭大觀

有珠郡伊達村 伏田孝造氏

氏は阿部嘉左衛門氏の二男にして付て伏田家に養配す此より先き養父滿壽氏は舊主邦成君の募りに應じ弟留之進氏及小野幸作氏等を渡道せしめ同五年に至り家族と共に紋鼈に移住せらる爾來森林原野を開發して明治六年までに宅地及び畑を墾成すること九町歩餘に達せり同六年亘理郡に抵り同藩士中北海道移住を企圖して渡航費を給與せられず其の志望を果す能はざるもの三十餘戸を助けて移住せしめたるに開拓使より扶助を仰ぐ能はず其の困苦云ふべからず氏百方盡力私金を貸與し同八年まで三ヶ年間之れが窮乏を救ふに力を盡せり同十一年地方の物産を輸出するには地方の船舶にあらざれば隨時運轉し能はざるを憂ひ西洋形帆船永年丸を新造航海せしに十二年十二月六日山越郡宇ユウラツプ海面に於て暴風の爲め破船し同十三年西洋形北海丸を造り陸前石の巻及び越中伏木港へ航海し同年十二月二十日歌葉海面に於て破船し爾來斯業を擴張永續することを得ざれども地方運輸の便を開きしは與りて力ありと云ふべし同十六年有珠郡内早魁の爲め農作物不熟村民の內衣食に窮せんとする者あるに際し百八十二戸の依託を受けて横濱の豪商堀田忠次郎氏に依頼し米糠味噌及び金圓を借り農産物を以て償還の約を結び爾來年々契約を履行し同二十一年に迫んで義務を果す其間東奔西馳私

財を抛ち村民の困難を救助するに盡力せり是を以て家産漸く傾き僅かに一家を養ふに過ぎず然れども氏の志尚は屈せず進んで公共の事業に力を効さんと欲す其の功其志以て人の鑑と爲すに足る明治十一年永年九初めて紋産小豆六百三十石餘を積載して東京に抵るや滿都の商人等紋産の小豆なることを知らず其の直段を定め販賣を求むるに苦しみ取引上圓滑ならず且つ信用を得難きを以て紋産小豆の名稱を附し販賣せん豆販賣の廣告を諸新聞紙に掲載し是れより初めて幸蘭小豆の聲價を得るに至れり氏は資性温厚にして頗る義氣あり熱心力を公益に盡し能く人の急を救ひ事に當りて倦まず撓まず家産蕩盡の後と雖も一家能く親睦し農業に勉勵す以て其の平素を知りて是る而して内室キヨミ子ノ家政の援助に據る所大なり氏幼時江理郡中泉村に在り劍術を好み同藩士荒川又左衛門を師とし天流を學ぶ中泉より小堤村に至る二里餘朝夕往返七年間少し々懈らず技術大に進み天流の五ヶ條一を萬字二を左右劍三を極無上四を燈五を日劍と稱する秘術中四ヶ條を傳授せられ伊達君の擊劍對手を命せらる當時村落の者舊主の對手下等を賞賜せられしこと數回に及ぶと云ふ明治二十二年五月五ヶ條を授けられ天流の秘術皆傳の榮を得たり明治三年同藩士移住者渡航費用に充つる爲め金五十餘圓を伊達君に献金し白鞘大刀一口を賞賜せらる亦紋産學校營構を負擔盡力し落成の後邦成君より狩野元信布袋の畫一幅を賞與せらる其の他學校道場築修繕費等へ金圓を寄附して木杯及び賞状等を得たること數回に及べり養子孝造氏は資性温厚にして義氣に富み分家以來養父の意志を繼承せんとし及べり精家業に努めつゝあるも頻年官家阿倍家の家政上に不如意の點あり之れが保護の急務を認め全戸喜茂別驛に移轉して實家の整理に鞅掌しつゝあり孝造氏の孝心たるや實に其名の如くにして當世稀れに見る人物なり

附録 實業家略傳

九〇



渡部義顯君の室蘭大觀著述成れりと聽きて懷古一首を作りぬ

七十三翁

安倍之相方拜

附録

實業家略傳

九一

有珠郡伊達村大字西紋産村字關内
關内開創家 渡部 ジ ュ ン 氏

ジユンは堀込氏の女にして蘭之助の妻に嫁し二男一女を擧ぐ二十五才にして夫病死するや善藏入夫と成り二女を擧ぐジユン蘭之助と共せり養父母に事へて孝養を盡し病は長病に罹り後ち舅に助病は罹ると雖も其看護に怠らざりしも父母前後ありて死す此間ジユンは辛酸苦闘十數年に渉る明治四年邦成君北海に移住の事あるや夫病床にあるを憐みとなし十三年才の幼者を懐みとなし地に移住せしめん事を誓ひ後ち紋産の内字關内に涉りて開墾に奮勵せし者なり

室 蘭 大 概

今より三十餘年前。主従移住の其際は。君の父上常ならず。病の床に就きながら。移住近しと氣を揉んで。熱夢の中にも夫れ早く。出立せんと促がせば。操賢しき君の母。夫の心をくみわけて。看護まにまに奔走し。二人ともあき君をして。千載無人の絶境の。斃れて止むの開墾に。親に換つて移さんど。手を放したる心根は。女ながらも勇ましや。操と言はで如何にせん。此時君は十三か。父母の命令畏みて。父母を放れて行かんとして。移住の仕度潔きよし。時の人々見聽して。父やたれば子々たりと。感人こそなかりけり。抑も明治四年の春。主に従ひ移住の途。君を保護する不肖等か。同行移りて同居なし。孝心深き君なれば。學問勉強怠らず。まもなく君の双親は。病氣全快移住して。開墾勉強家富めば。君は官吏に奉職し。精勵勤績二十年。戸長の職に進みたり。退職以來致々として。全道各地の沿革と。實業篤志の名譽家を。永く歴史に残さんど。千辛萬苦奔走し。わまたの資金を費して。室蘭大觀著述せり。之ころ國の美觀なり。或は國の名譽なり。愚老親しく拜聴し。君が美徳を賞賛す。

附録 實業家略傳

室 蘭 大 概



洞 爺 湖 (村 警 壯)

附録 實業家略傳



莊 警 龍 (一 名 三 階 龍) (村 警 壯)

村 警 壯 (龍 階 三 名 一) 龍 警 莊

失敗に終始して失敗に屈せず一難を脱して勇氣更に倍進し世波の險惡を闘つて今尙屈せず常に士君子の風を以て居る洵に珍とせざるを得ず看よ庄司定吉氏の半世の経過は先敗の歴史あり困憊の歴史なり而して成功の歴史なり於て資産豊かならずと雖も令妻千代子を入者なり壯警村發達上の恩人なり氏は今日に於て及んで日夕家道の恢復を念とせり娶りて以來既に十餘人の男女を挙げ愛子等長するに及んで一代の成功事業として他事あり然れども氏は盤城河内郡の父を定右衛門氏と云ふ氏は其二男たりるなし氏は盤城河内郡の父を定右衛門氏と云ふ氏は其二男たり舊理藩主男爵伊達邦成君の臣にして明治三年有珠郡開拓の草分けとして紋警村に移住し爾來草根木皮を食ひて舊主の事業を援け開拓の宏業を成しめたるの人なり氏は亦壯警原野の前途に達観し茲に居を移して以來十數町歩の土地を開墾して農事の好成績を示し或は自ら教鞭を採りて隣祐の子弟を教育し或は道路を開墾して交通に便する等其他壯警村創始時代に於ける各般の事氏の手腕に待たざりしものなしと云ふ氏は亦詩作に長じ漢籍の造詣淺からずと聞く氏も亦人傑なるかな

附録 實業家略傳

有珠郡壯警村瀧の下 庄司定吉氏

九四

氏は新潟縣岩船郡立の越村の人幼にして穎悟長するに及んで跼踖して郷閭の黨と伍するを欲せず明治十九年渡道し徒手空拳より身を挺し幾多の困苦に耐へ財を蓄積し今や久保内に於ける豪農の名にちかざるに至れり

有珠郡壯警村字久保内 農業家 船山熊太郎氏



有珠郡壯警村字辨慶別 温泉旅館主 作間林之助氏

は風光明眉春の若葉に夏のみどり秋の紅葉冬の六花四時の眺に五條の橋と名づく一度遊んで作久間翁に其由來を尋ねられよ

附録 實業家略傳

九五

札幌區南七條西一丁目十番地
土木請負家 地崎宇三郎氏



氏は富山縣の人明治二十四年居を札幌に占めらる札幌は北海に於ける中央政權の集積地であるを以て此地に請負業に従事し自己の目的を他日に達せんを期し爾來土工、橋梁、排水等の工事に従事して経験最も富むる利得する所亦鮮なからず明治四十二年十一月廿八日此工費三千九百二十圓を以て請負を爲し四十二年二月完全なる竣工を告ぐ此橋梁架設の爲め將來地方拓植上に裨益する所極めて大ならん茲に氏の功勞を永久に特筆す氏は土功及橋梁工事を得意とする事なく都て熱心と誠實を以て慈母の赤子に於けるが如く且つ家庭の圓滿なる處同業者間他に其比を見ずるは令室の援助由る所大なり

蛇田鑛山概況

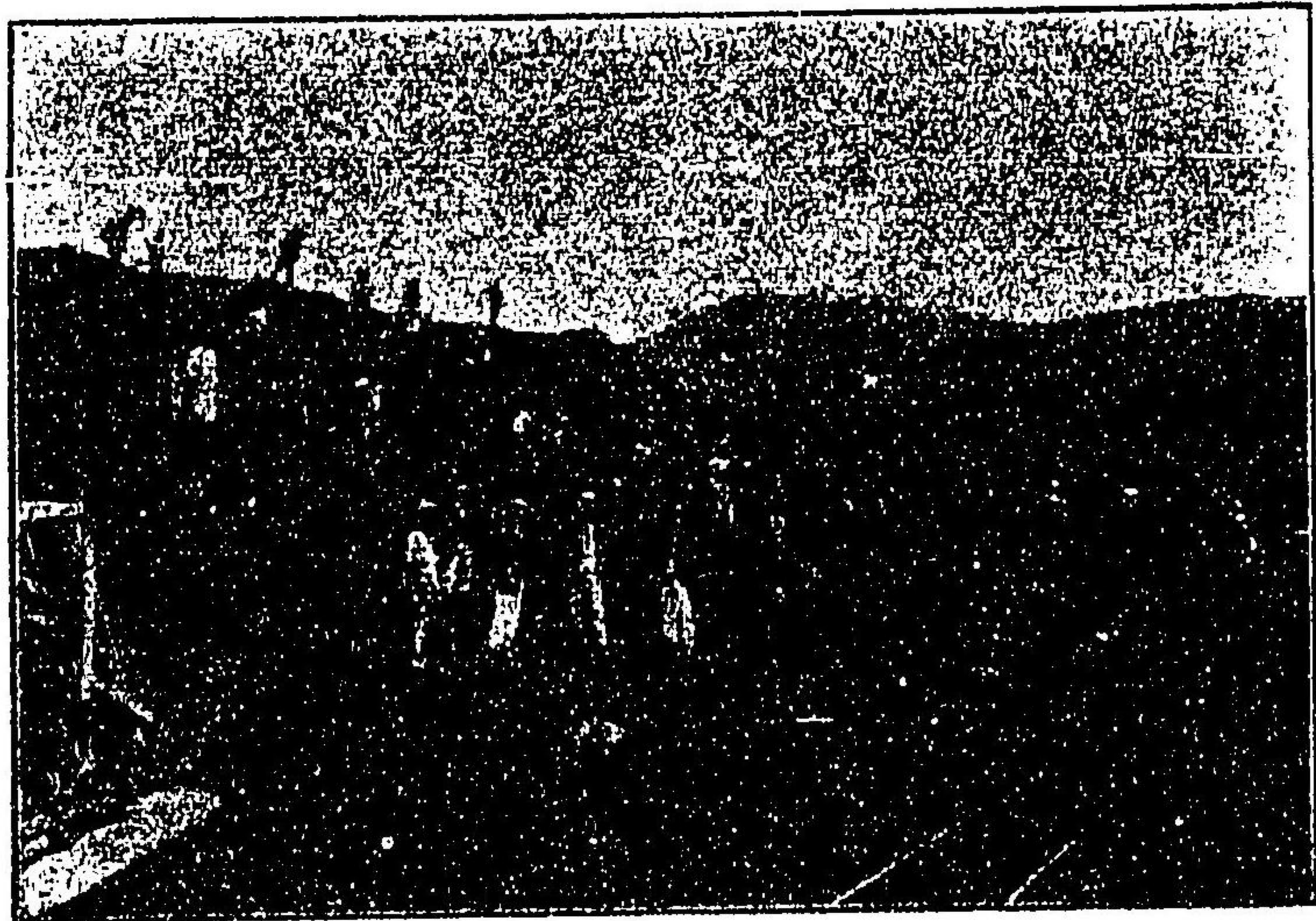
- 一 蛇田鑛山 膽振國蛇田郡蛇田村
- 一 鑛主 橋本忠次郎 仙臺市定禪寺通り檜町十三番地
- 一 鑛業事務所 東京市京橋區築地二丁目二十番地

業 明治三十八年中

一 鑛量 凡二百萬噸

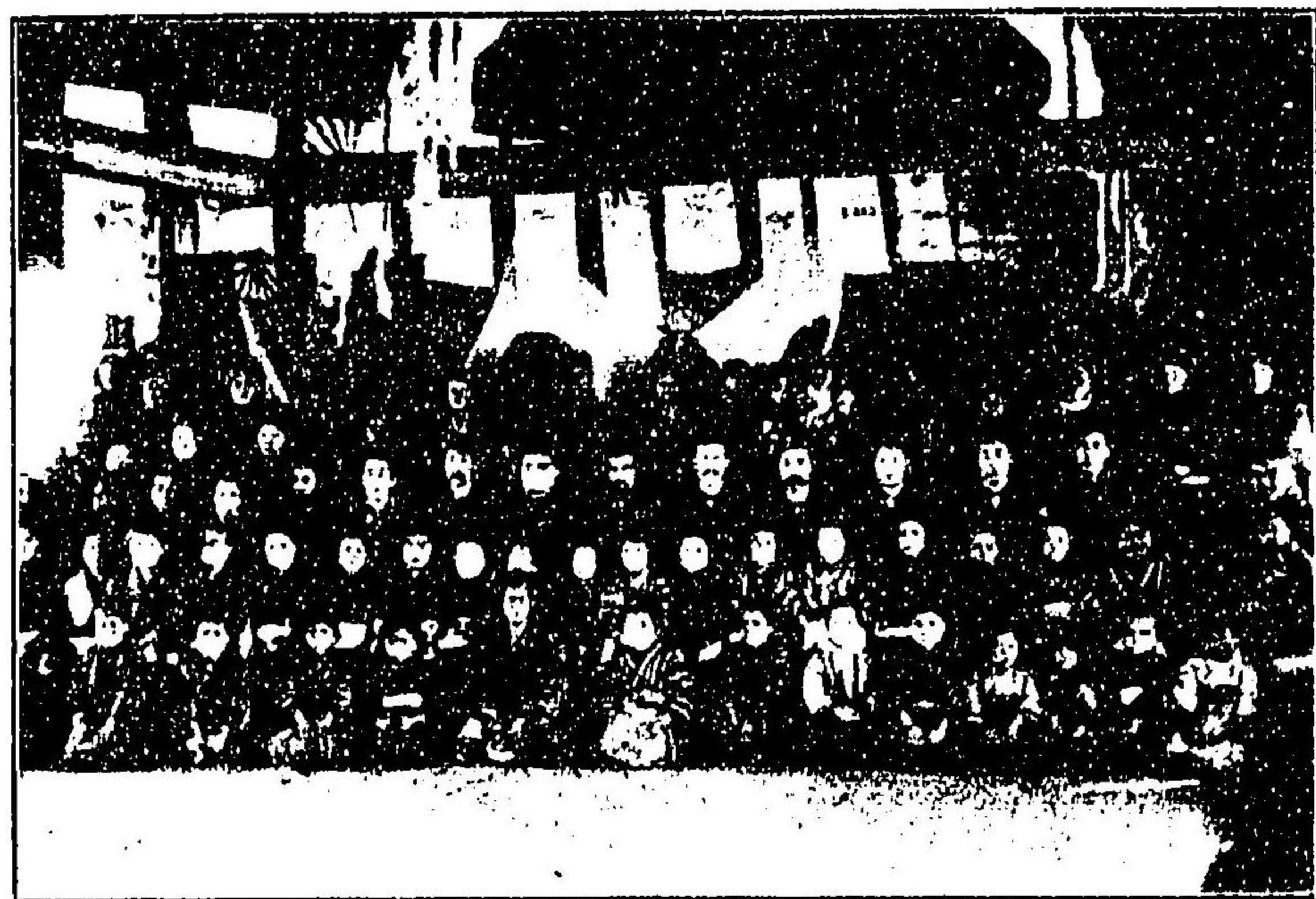
一 位置 室蘭港より約十六海里

本鑛山は全部褐鐵にて地下三尺以上七八尺の下に一定の層を爲し採掘は露天掘りとして容易なり運搬も亦海岸を距る一哩内外にして輕便線は平均百分の一勾配にて最も容易なり販路は八幡製鐵所に契約あり軌近鐵の需用は著しく増加し尙後尙必要を増すは論を俟たず室蘭製鐵所開始も遠きにあらざれば近き將來に於て大に發展す可し



附録 實業家略傳

室蘭大觀



此田第二尋常小學校 (此田村)

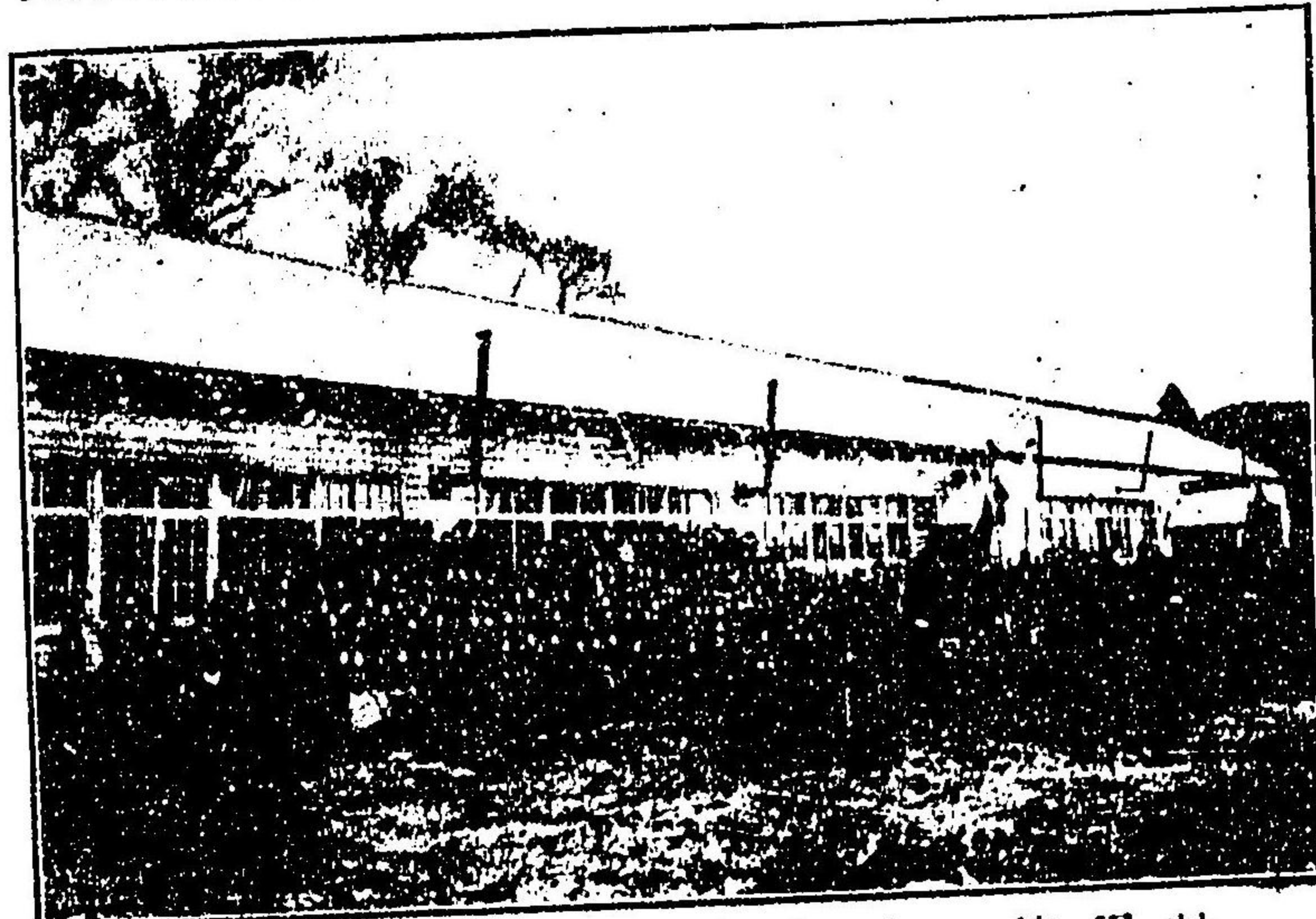
附錄 實業家略傳

九九



亮昌寺 (此田村)

室蘭大觀



此田第一尋常高等小學校 (此田村)

附錄 實業家略傳



此田實業補習學校 (此田村)

九八

附録 實業家異傳

虻田郡虻田村 志賀兼治氏



農會より推されて會長と成り貢獻する所尠ならず三十九年四月一日を以て三十七八年事件の功に依り勳七等に叙せられ青色桐葉章及金五十圓を下賜せらる

氏は慶應三年十一月十二日福島縣石城郡高久村に生る明治二十二年町制實施の當時居村役場書記に就職し十五年六月居村々會議員に擧げられ二十九年十月夏井高久兩村組合會議員となる三十一一年五月高久村役場助役に當選三十七年六月滿期退職三十七年六月有珠郡壯警村戸長に任せられ専ら教育の事に盡力し及租稅滯納の弊習を洗淨せらる三十九年七月虻田辨邊組合長に轉じ爾來教育事業に専らせられ或は産業發達の事に留意し四十一一年十一月虻田辨邊聯合物産品評會を開催し兩

虻田郡虻田村 農業家 石井昌議氏



に教育宗教其他道路の開鑿基本財産の造成等村百年の計を確立するの upper に於て苦心しつゝあり故に村内仰へて元老株と爲し郷黨に重きを爲せり

君は宮城縣元と亘理藩の士明治の初年舊主伊達邦成君に従ひ渡道す明治五年室蘭札幌間新道開鑿の時に方り開拓使に出仕して其職務に盡瘁せらる後ち居を虻田にトして拓植の事業を經營し數年ならずして大地積を開墾し其名遠近に噴々たり爾來土木請負業をも兼ぬ氏は資性温良にして義に富み博愛の情は衆人の上に在り現

附録 實業家略傳

附錄 實業家略傳

虻田鐵山事務所長
鍊業家 津々良麟介氏



一新するに至れり氏温厚篤實にして勤勉能く人を愛撫する徳器を具へたる故に部下の敬慕深く恰も慈母の赤兒に於けるが如く和氣霽然たる美風は敢て模範鐵山の稱ある謂なきにあらざるべし

虻田郡 虻田村
農業者 關根欣十郎氏



成して令名高かりしも不幸二人の愛子を遺して前年病没せらるる氏の詩は令息の作なりとす傍ら風月を友とし悠々自適せらるる本會噴火灣八勝關根玉翠

附錄 實業家略傳

一〇三

宮城縣理郡の人舊仙臺藩一門伊達邦成君の舊臣にして伊達村に移住し來りて業を經營して得る所あり治二十九年虻田三郵便局長に任せられて以來功績にして地方通稱の功績に盡力せられたるの功績に及んとせぬ其職を退けらるれ村内農家の便益を圖り傍ら農事に従事せらるる性温厚篤實言にして公共心に富み各種の公共事業に捐資して官賞を受くること數回に及ぶ亦氏の令息等十郎氏は曾て守蘭支應に職を奉せられ勤勉能く其事務を

金毘羅寺創設の概況

北海道虻田有珠兩郡に跨る洞爺湖は海内無比の靈地なるを以て此に金毘羅寺を創立して北門の啓發に就き大に貢獻せんとする有志家の趣意書を左に掲げて一般に紹介せんとす（御本尊は明治四十三年三月遷移式を了せらるる本書には右寫真掲載の約束なりしも原版到達せず故に略して趣意書を掲げたり）

金毘羅寺創立の經過及び其趣旨

抑讃岐國金毘羅大権現は海内無比の靈地として世の崇敬極めて篤く報賽祈願の男女常に絡驛肩磨の日あらざるなきは今更喋々を俟たざる所なり而かも金毘羅大権現と金刀比羅宮とは世人混同誤信の結果異名同身の如く崇拜せらるゝは明治維新の際に於ける所謂神道勃興の結果にして金刀比羅宮は大物主命を祭り崇徳天皇を配祀するものにして本尊金毘羅大権現は印度出現佛法守護の善神として全く別體に屬す世々の列聖仁皇の歸依殊に篤く讚州小松の庄松尾寺の所奉善にして眞言宗金光院別當として特に金毘羅堂を置き其松尾寺金堂に藥師佛を安置し又多度の通寺を前院となし阿波の箸藏寺を奥院として船頭水主の崇信尤も篤かりし事は歴史記録古文書寶什其他諸資料考證の動かす可からざる確説たるは識者の夙に認むる所にかゝる大物主命を祀る所としては出

室 蘭 大 觀

雲大社あり崇徳天皇を祭る所としては京都に白峰宮を建て讃岐陵たる三峰神社のありあり佛法の守護神にして海の神たる金毘羅大権現は巧妙なる神道家の術策によりて斯の如く世の誤信を敢てするは心あるもの、深かく遺憾とする所なり今や北門の經營漸く緒に就き北海道各地移住拓殖の盛と樺太開發沿海州漁業の發展將に潮の如く關扉を非し來らんとするに當り海の白神たる金毘羅大権現の鎮座は海の人たる北門萬民衆庶の渴仰して已まざる所なり讚州松尾寺は深く威勢の推移に考へ本尊を奉じて金毘羅寺と命じ本道膽振國虻田郡虻田村洞爺湖畔海内無比雄大崇高の天秘たる蝦夷富士の山聖と洞爺湖水の漂靈をあつめたる仙境を卜して建立を計畫すると茲に數年近頃湖畔市街地の區劃設計も既に成立したるに加へて金毘羅寺假御堂の落成を告げれば本年十月十日十一日を以て盛大なる上棟建立式を執行せり有珠虻田紋鼈壯幣留壽都附近の各部落より群來せる男女老幼一千數百人は散々伍々且つ集まり且散じ湖畔の秋色と盛裝の綾羅を争ひ後方羊蹄山の初雪と互に其面貌を競べつゝ霰と散り霰と播く餅投げに因の聲を作りて雜踏を極めたる異觀奇勝は如何に湖中の魚をや驚かしけむ薄暮紅燈列なり旗幟風に流るゝ式場は祭壇を前にして清宴を張りたるに往昔印度に於て大聖世尊釋迦牟尼如來御在世の時汎く衆生を濟度し給ふ沙羅双樹下の佛徒群集の如く宛然一幅大畫圖の此光景中に於て遷奉經營の報告をなし北門の開發慈善事業の計畫交通機關の設

室蘭大觀

附録 實業家略傳
 備等に就き演説説教講話をなして信徒役員の激勵をうながせり然り而して國勢を達觀したる松尾寺の發展に依り金毘羅大權現の遷奉は洞爺湖畔金毘羅寺假御堂落成建立式と同時に一步を進めたり本堂護摩堂鐘樓參籠所其他附屬の堂塔を建築せむこと難は則ち難なりと雖も八萬四千の護法の眷族と共に十方有縁の信者に信賴し應分の淨財喜捨を仰ぎ以て此願望を成就し昔日の光輝を挽回せむとす依て乞ふ大方の善男善女共に濟けて應分の贊助あらば二世の勝願期せずして成就し二利の善業求めずして圓滿せむ歟松尾寺の依頼によりて金毘羅寺經營の任に當りたる 不肖等 總裁以下の役員は初め其建立地の探検調査に對し全道の山河沼湖悉く跋渉せざるなく甚大の苦心苦業を嘗めし結果遂に宇内無双の聖靈の地域たる洞爺湖畔を以て此希望を充たす最好適地と確認撰定し先づ所轄村たる虻田村に誘導を謀りしに大に賛同を表せられ忽ちにして共有地十萬餘坪を特賣せられたり是に於てか金毘羅寺建立の一方法として金毘羅新市街を經營し以て本山參拜者に對し祈願寮養將た清遊に要する旅館雜貨供給の有らゆる社會的設備をなして遺憾なからしめ新道開鑿鐵道布設等の交通機關の設備と共に普く各地の信者を吞吐し本尊佛の利現と山水氣候の天慶によつて所謂二利の事業の圓滿結縁を期するや切なり大方幸に地理歴史因由文明福徳利源の總ての點を考爾し多年經營の徒爾ならざるを諒せられむことを勉旃々々。明治四十一年十月 總 裁 秋 山 甚 平 外 五 名

室蘭大觀



後方羊蹄山(眞狩村喜茂別川より望む)



加藤農場(眞狩村)

附録 實業家略傳



附録 實業家略傳

蛇田郡真狩村字留壽都 澱粉製造業家 藤川 役治氏

氏は香川縣の人明治二十年北海道に移住し徒手空拳より身を挺して幾多の困苦に耐へて農業に従事する事十ヶ年明治三十七年秋を投げてナンベツ川の清流を應用して澱粉製造の一大工場を設立し斯業の經營數年ならずして其名郡中に噴々たり而かも民や豪傑少しも屈せず一身を恃んで他なきを信じ未開の地未知の人の間に立ちて産を興し益々氏の豪懷をして破天業の行爲を敢てせしめ細心にして大膽畫策の周到經營の巧妙とは遂に氏をして留壽都第一流の實業家たためたるなり氏は精神潔白にして義に富み博愛の情は確に衆人の上に在り現に教育宗教其他真狩村太間の道路改築等あらゆる公共事業に苦心しつゝ村會の議場氏の熱情は湧くが如く香川縣人中稀に見る實業家と云ふべし



蛇田郡真狩村大字喜茂別 眞狩村開創家 阿倍嘉左衛門氏

氏は舊江理藩士にして明治四年渡道當年本願寺新道及黒松内の兩所に驛傳を設置するに方り伊達家舊臣より移すべきの官命あり當時喜茂別は江寒凛烈の土地なるを以て邦成君痛く之を憂ふ氏自ら其任に當らんことを誓ひ茲に移る次で札室間新道開通するに及んで驛傳の閉鎖と共に紋繼に復歸す其後蛇田定山溪間の新道開鑿と共に驛傳取扱を命せられ再び此地に移る氏は資性温厚直實にして又能く神佛を信仰し曾て村社の目的を以て伏見稻荷を勧請して稻荷社を建立し又は驛遞官馬の不幸眼疾に罹りて双眼失明の患を蒙りての氏は村治に

附録 實業家略傳

斃死したるもの靈を祭るが爲めに馬頭觀世音を建立す不來詩歌を詠じ樂器を友とし悠々自適せらる君家の爲め獻身の盡力せし結果今や一郷に敬重せられつゝあり

虻田郡真狩村大字喜茂別
農業家 杉目大三郎氏

氏は福島縣宇多郡の人舊日理藩の士たり明治維新に際し伊達家が蝦夷地開拓の舉あるや氏嚴父と俱に紋鼈に移住し爾來克苦精勵拓植專業と村治上に貢献する所尠なからず氏付て紋鼈戸長役場に奉職せらるの時村内屈指の敏腕家として聲名高かりしも商業上に失敗し明治二十六年中轉じて居を喜茂別に構へ専ら家業を興さんるを期し後志山麓、喜茂別河の邊、蠻烟天日を蔽へ狐狸熊狼跳躍し四面森林深く人跡不入僅かに河向に阿倍家の外五六小屋の點在を見るの時草小屋に起臥し精勵夜を日に繼ぎて農事を營ふ數多の眷族を扶養して動せず屈せず遂に三十餘町歩の畑を成墾するに至る其辛酸苦楚は實に常人の想像の及ぶべからざるものあり氏は先天的に非凡卓越の才を具へ常に村治上に計畫せんことを欲せり宜べなり曩に真狩村總代人に擧げられ其後村會議員となりて地方發達上に盡力すること數年今單に學務委員の公職にありと雖も村内實業界の牛耳を取り其名郡中に高し氏は膽振國地方屈指の人物にして居常氣節を重んじ意氣の豪壯他の膽を奪ふに足るものあり故に才腕の利愈々精烈を加へ冒頭更に一光輝を放つが如しと雖も資性快裕風采悠揚其人に接すとや赤心を披瀝して毫も城府を設けず人皆之れに悦服せざるものなしと云ふ

室蘭大觀

室蘭大觀

虻田郡真狩村字上目名
農業家 稻村道三郎氏



名原野開發の爲め企畫しつゝあり氏は資性磊々落落々にしてするを以て一般の信賴深しと云ふ嗚呼氏の志や遠大にしてて本來の抱負を伸べん事必せり以て氏の平生を窺ふに足らん

氏は新潟市の人北海道拓植道植民地の狀況視察をし其の秋歸郷翌年妻子携帶海路岩内に抵り先づ倶知安村に居を占め農業に従事せらるに既に百有餘町歩の成墾地を有するに至りたるも辨邊港の發達に望み同港に轉住せり其後上目名に於て二百五十餘町歩の牧場を譲り受け爾來經營しきに適ひ現に真狩村會議員たり頃者村内に馬鐵布設の企畫別割等級調査委員及納稅反る氏は又澱粉製造及水車賃摺等起業の準備中にして日情義に厚く快斷能く事を辨機に觸れ時に遇はゞ一躍し

虻田郡真狩村大字喜茂別

農業家 丸子源吉氏

室蘭大觀

氏は宮城縣亶理郡の人仙臺藩の一門男爵伊達邦成君の舊臣たり曾て岩内方面に移住せられ感ずる所ありて明治二十九年中喜茂別に移住し爾來精勵地方拓植事業の爲め盡力する所尠ならず氏は資性極めて活達にして喜怒哀楽も之れを發せず居常温平として平等主義の下に人に接するを以て徳望高し明治四十年推されて真狩村七部長と成り爾來孜々として公事に盡し公共事業を畫して屈せざる如き其の他公私の事に奔走する等私財を消費して盡力せしこと舉て算ふべからず氏は亦北海道拓植事業の前途に達觀する所あり明治三十四年中南部團體を募り本村字尻別に二十餘戸を移住せしめたるに其の成績極めて良好にして他の模範となるの盛況を呈しつゝあり又同三十七年中本村が野鼠の爲め農作物を害され其の慘狀や筆紙の得て盡す能はざるの時に處し早瀬氏の製材部出張所を設置せしめて村内の福利を謀りたる如きは其の熱誠なるを證するに餘りあり氏は當地方稀れに見る人物にして丸子家の前途夫れ甚だ多望なる哉

室蘭大觀

虻田郡真狩村大字尻別 農業家 鈴木鐵藏氏



又氏の繼父新吉氏は八十八歳の高齡なるも氏孝心深く日夜仕へて息を發せしめつゝありして亦以て氏が平生の一斑を察するに餘りあり

氏は宮城縣亶理郡仙臺藩の一門男爵伊達邦成君の舊臣たり曾て岩内方面に移住せられ感ずる所ありて明治二十九年中喜茂別に移住し爾來精勵地方拓植事業の爲め盡力する所尠ならず氏は資性極めて活達にして喜怒哀楽も之れを發せず居常温平として平等主義の下に人に接するを以て徳望高し明治四十年推されて真狩村七部長と成り爾來孜々として公事に盡し公共事業を畫して屈せざる如き其の他公私の事に奔走する等私財を消費して盡力せしこと舉て算ふべからず氏は亦北海道拓植事業の前途に達觀する所あり明治三十四年中南部團體を募り本村字尻別に二十餘戸を移住せしめたるに其の成績極めて良好にして他の模範となるの盛況を呈しつゝあり又同三十七年中本村が野鼠の爲め農作物を害され其の慘狀や筆紙の得て盡す能はざるの時に處し早瀬氏の製材部出張所を設置せしめて村内の福利を謀りたる如きは其の熱誠なるを證するに餘りあり氏は當地方稀れに見る人物にして丸子家の前途夫れ甚だ多望なる哉

室蘭大觀

附録 實業家略傳

此田郡真狩村字真狩別北六線角
西岡善太郎商店

▲吳服太物類
▲仕立物類
▲店主善太郎氏は元古着行商業にして尤も地方に信用あり人物として商機に敏に商内向
勉強なりとの好評を著るなり當店にて販賣する商品は品質善良且つ農家向き
用を専一として仕入先を撰擇するを以て顧客萬歳論より證據一品を購求せば自ら判明
すべし

◎吳服太物
◎和洋小間物
◎萬仕立物

膽振國此田郡真狩村字真狩別北六條

兔川里太氏



氏は資産裕にして商畧縦横の奇才に富み
真狩別市街敷ある商店中錚々たる人物な
り其の人に接するや温厚寡言而して世才
に長じ交際に巧妙斯道の爲めには一浮一
沈の失敗に倦まず撓ゆまず百難を友とし
て辛酸を嘗め漸く今日の順境に立つて資
産充實するに至りたる實業家にして尤も
古き商店なり

室蘭大觀



禮文華奇巖 (華文禮)



大内漁場大漁沖揚實況 (濱狩静村邊辨)

附録 實業家略傳

二五

二四



草野野旅館 (辨邊村)

附録 實業家略傳

虻田郡辨邊村字オフケシ

オフケシ開創家 草野休四郎氏

草野家はオフケシ部落の創始にして有珠郡伊達村の人男爵伊達邦成君の舊臣なり。嚴父は起業家にして或は製塩業を此地に起し或は農事を經營し或は旅館を營む等能く事業の興起に力を盡せり。嚴父死後休四郎氏は村内諸般の公共事業に與かり村會議員又は部長其他の公職に選ばれ盡瘁する所尠ならず資性温厚にして家業を勵み尙ほ旅館の名高くして千客萬來頗る繁榮するもの蓋し偶然にあらざるなり。



虻田郡辨邊村字仁成香 板橋萬之丞氏

氏は舊仙臺藩の治下氣仙洞人曾て伊達村に移り後ち洞爺孤兒院の會計主任と成りて世に尤も憐むべき孤兒の事業に参畫し無上の樂園とし營々辛苦事業の擴張に力めたるも清廉潔白の氏は院主林氏と意見と異にして勇退せり爾來未開地の貸付を得て奮勉卓勵事に當り而かも結果善からずして幾度も拮据勉勵の境に至り幸運を捉ふるを得るに至り連年豊作相繼ぎ利潤を収め得て數萬の財產を作るに至りぬ氏町村制實施の際に選はれ爾來永續の心深く教育宗敎衛生其他の公益に氣を盡し衆望期せり。

附録 實業家略傳

虻田郡辨邊村字靜狩
漁業家 落合 幸助 氏

氏は渡島國茅部郡森村の人森港草創以來實業に公職に官職に榮譽と利益とを一身に獲得し一方の功を奏して令名遠近に稱揚せらる氏は近時室蘭支廳管内に於ける虻田郡辨邊村靜狩濱に於て鮭漁業に従事せられ該業の前途有望なるを認められ追々鯉節製造の計畫等もありて仲々盛んなり該漁場は同業者大内氏漁場と並んで有望の場所なるを以て氏の豊富なる經驗を以て今後經營せられたらんには前途有望の事業なり世人が北海道の漁業と云へば直ちに鯉鮭等に指を屈するも噴火灣内には未だ一般人の多く目に觸れ耳に聽かざる所の鮭漁場ありて氏等年々利得するもの少なからず今や對岸室蘭港の發達と膽振鐵道布設等の氣運を向へつゝある秋に當り此の有望なる事業に従事し一面室蘭青森間定期船乘客貨物等の取扱回漕業及郵便局をも兼ね行はれつゝあり洵に福徳の人と云ふべき也

室 蘭 大 概

室 蘭 大 概

虻田郡辨邊村字靜狩
靜狩開創家 佐藤源四郎 氏

氏は宮城縣亙理郡の人舊仙臺藩の一門男爵伊達邦成君の舊臣にして明治四年春舊主に從ひ家族と共に紋鼈に移住して農業を營み舊主家の爲め甚だ勤む明治十六年六月辨邊村字靜狩に於ける伊達家の漁場監督の命を帯び單身此地に來りて徐々其經營に努めたるも當時漁法未だ完たからず且つ交通不便にして漁業經濟上收支相償はざるを以て廢業するの止むを得ざるに至れり是より先氏の君家に盡されたるの効勞は枚擧するに遑あらざるも伊達村移住以來未だ席温かならざるに再び父母妻女と相別れ荒蕪無人の境に入り群蛇と闘ひ蚊虻の包围を蒙り忍ぶべからざるの人情を忍び不毛の土地を開闢して今や一村落を形成せしめたるの功績は地方開拓史上永く特記すべきものなり氏は資性温厚直實にして義氣あり竹て靜狩山道旅行者の便利を計り旅人宿の營業を開始し又學校を設置し社寺を設くる等其他公共の事業に就ては遺憾なく籌策企圖せられつゝあり氏幼にして學を好み俳句を能くし又劍道にありては秋葉山四天流柔術大太刀小太刀半棒極位傳授併せて秘術を受けらる實に氏の如きは武門に生れ武士道を遺憾なく實踐せられ子孫繁榮の基礎を拓らきたるものにして眞に一門の光譽なりとす

室蘭大觀

赴いて勢力を厭はず人の危急を救つて金銭を吝まらず天晴義
 憾なし氏は本年四十七歳妻子共五人家内の和合は益々斯業



附録 實業家略傳

氏は愛媛縣宇摩郡の
 三十七年十月に於て
 此田郡に事す所あり
 農業に從事し三月に
 治四十年三月に於て
 地に穀商を開き早
 シ豆の地は豊穰にして
 大豆等の産物に早
 大將來の望なるを達
 も通路の樞要なるを
 太星霜の僅三ヶ年
 へ至る資産と目する
 村の至るは明治二十
 日に至るは明治二十
 隊に於ては五ヶ年
 義俠の爲に兄弟の誼
 の爲めには兄弟の誼
 薄なる當世に處し難
 俠家の眞面目を發揮
 の繁昌を捉しの微なる
 三

虻田郡狩太村字ルベシベ
 農業家 河村民藏氏

室蘭大觀



(村太狩) (塙農藤近稱通) 塙農太狩眞

附録 實業家略傳



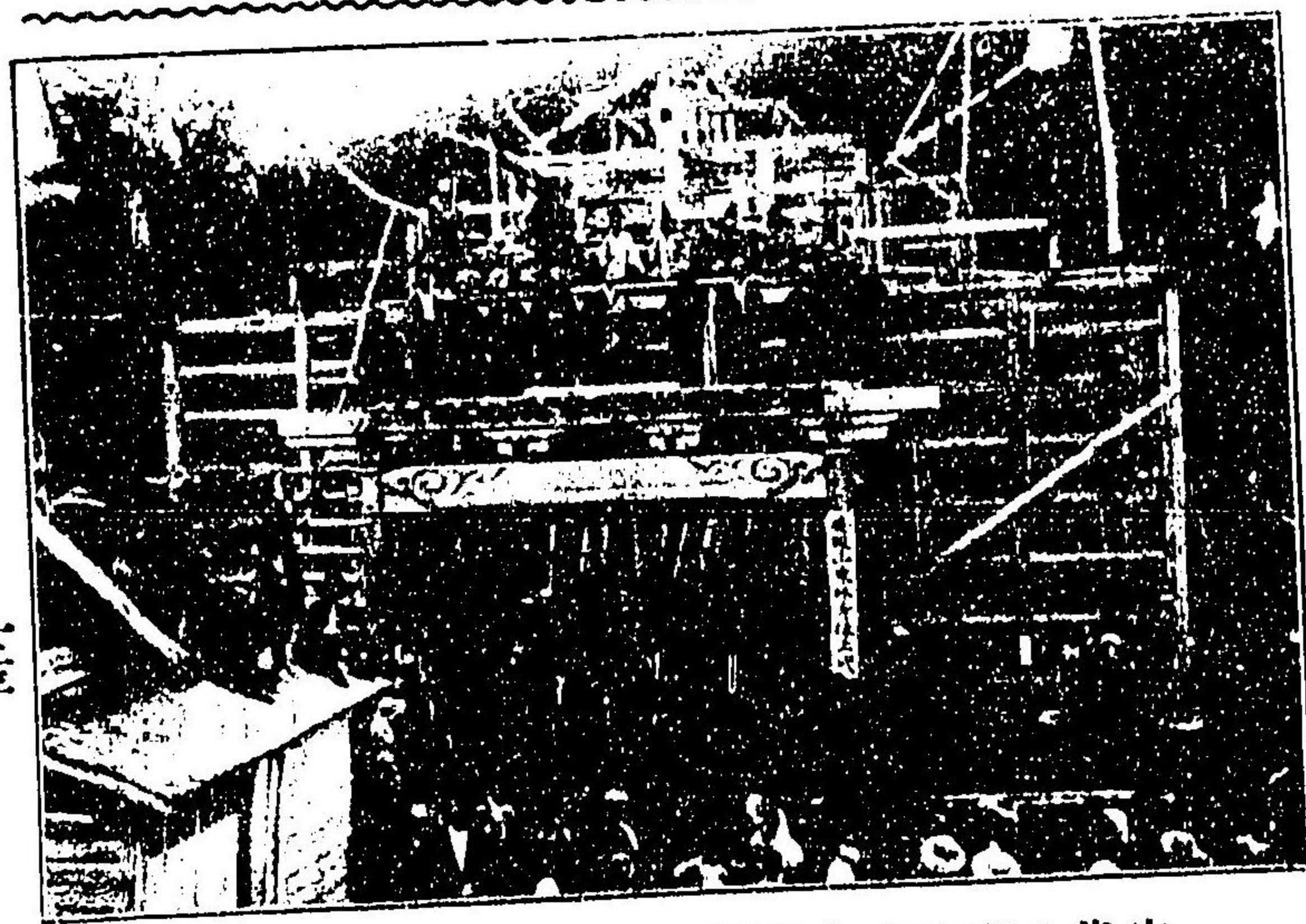
(村太狩) 師善正木々佐基開所教説寺願本派谷大

室蘭大観



附録 實業家略傳

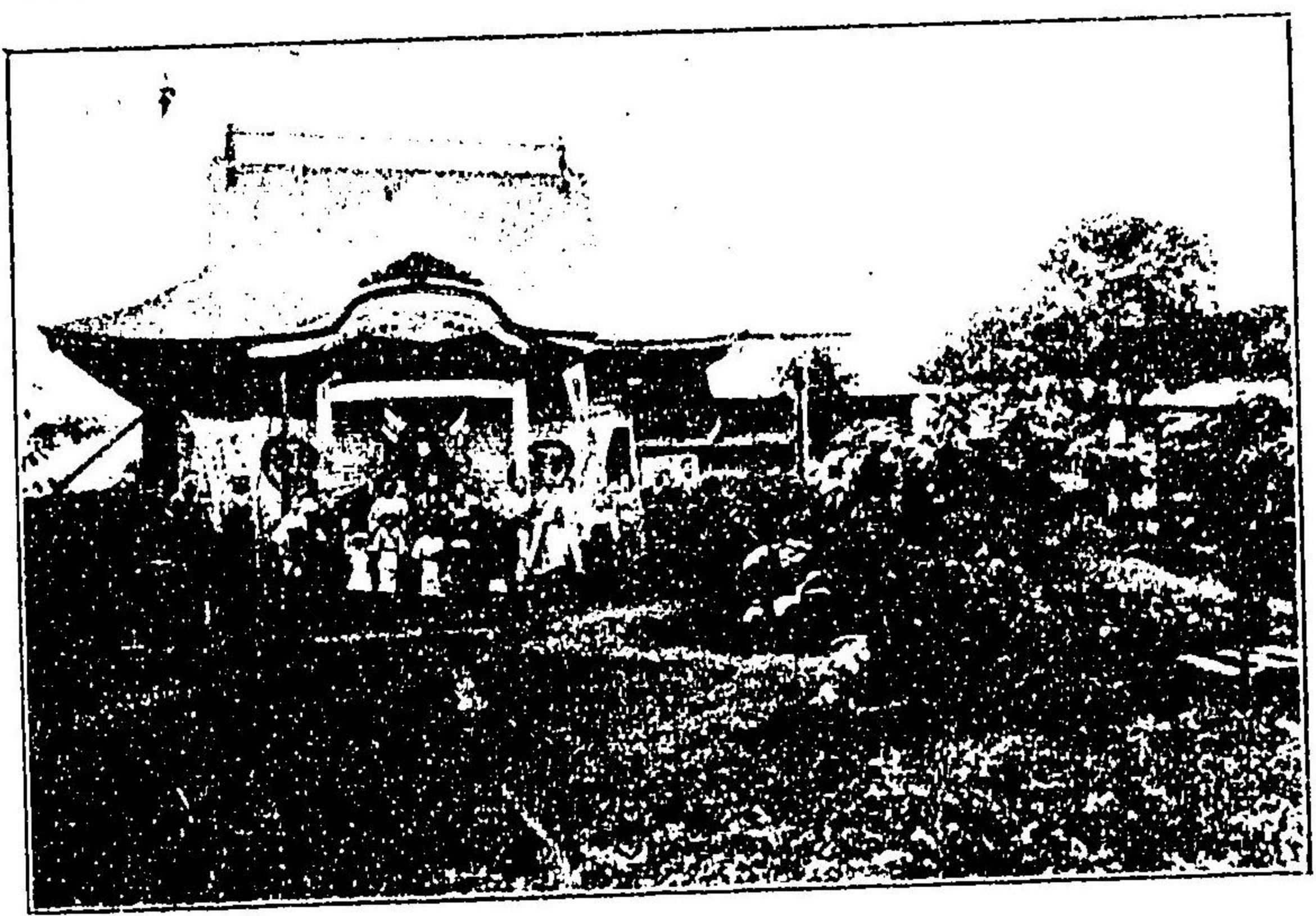
(村安知俱) 行一山登蹄羊方後士博學理部宮



二三

(村安知俱) 基開師城巖階山寺林東山養安

室蘭大観

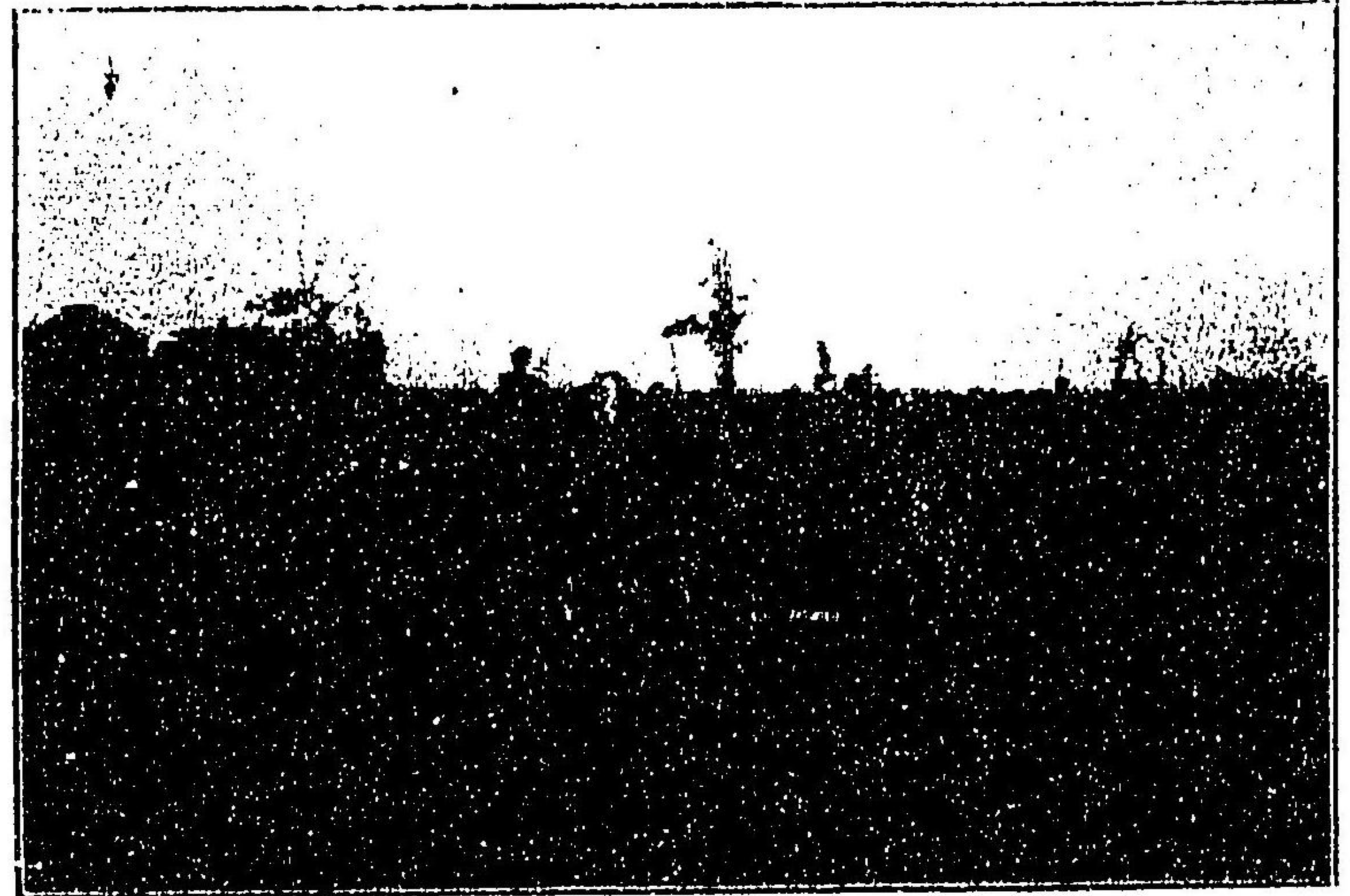


附録 實業家略傳

(俱村安知) (師運孝出今基開) 寺運孝山年萬

孝運寺は北海道膽振國虻田郡俱知安村基線六號線にあり萬年山と號す本寺は陸前國志田郡敷玉村萬年寺住職今出孝運志を决し明治二十三年九月單身北海道布教に從事し五ヶ年間所々の布教を経て明治二十八年四月俱知安村に入り新開の農民を布教し説教所を設け法雨に浴せしめたり同三十五年九月孝運寺と公稱認可せらる境内敷地千三百五十餘坪本堂敷地八十餘坪を有す現在檀徒の主要なる者には東京農場長森正名、米内澤、石井彦三郎の諸氏なりと云ふ本山開基第一世今出孝運師は弘元甲辰歲二月十四日福島縣下に生れ仙臺城下に修業す師は坦海と稱し泰翁と云ふ天資温厚にして情義に厚く且つ理財の道に明く明治三十三年九月觀音堂の目的を以て本堂を新築せしも新開創始の檀徒に寄附を仰ぐは本意にあらずとて私財を投じて之れが建築費に充て其餘は檀徒隨意的喜捨に待てりと云ふ其高德の香んばしき所他に比を見ず

室 蘭 大 観

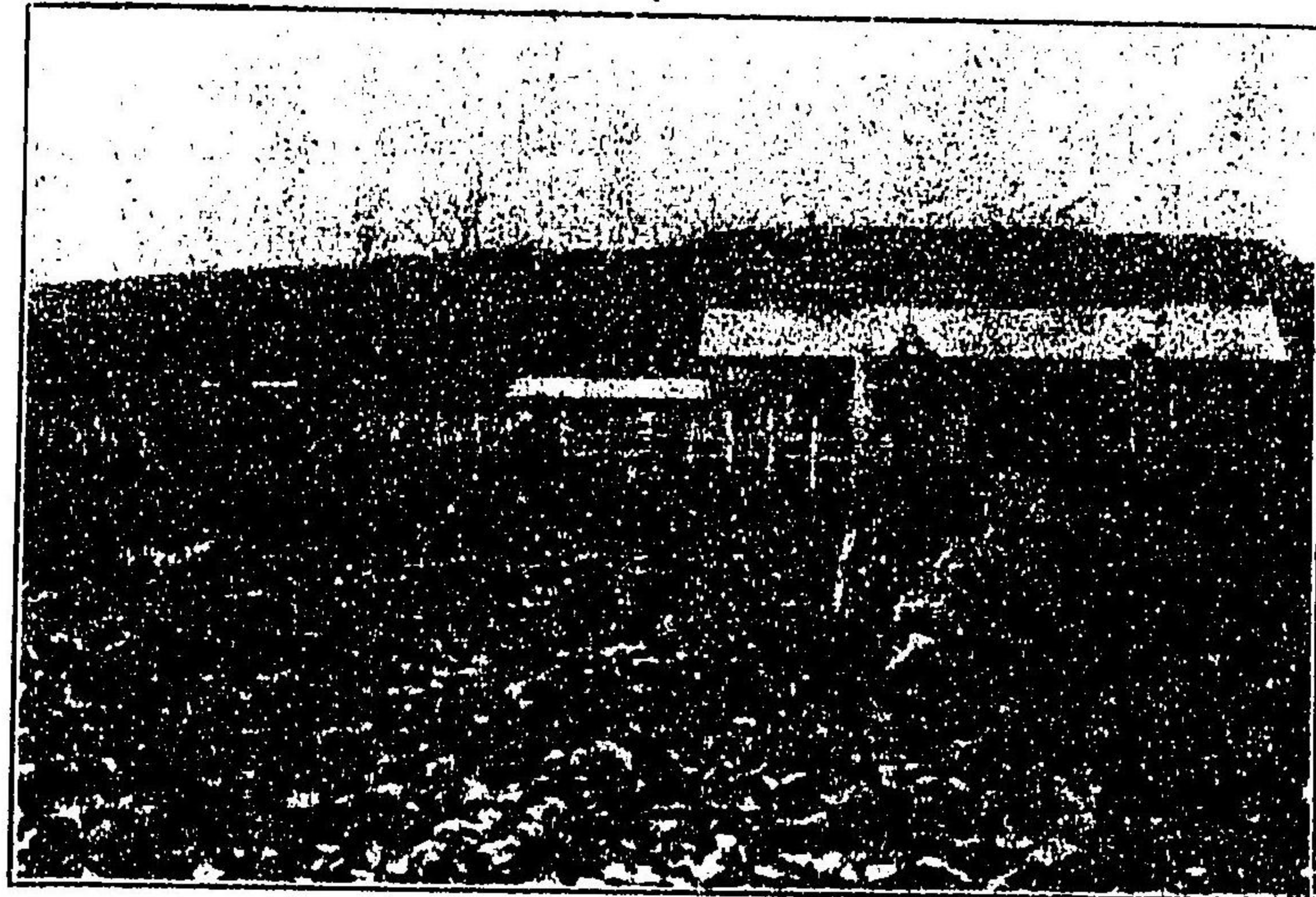


附録 實業家略傳

(村安知俱) 會我農場模範水田試作場

上欄の水田は從來數年試作の結果成功すべきを試め本場は道廳農務係に上願し米作専門家外賀氏を派遣せられ明治四十一年中模範田を開設したるに其成績良好にして明治四十二年に於ける一反歩の收穫高一石七斗餘を見るに至る本場地内は地勢高燥なるを以て干害なしとせず故に將來水田を開設するの方針にして若し整地上收支償はずして止むの場合に遭遇することあるも小作人の食料米丈は必ず耕作せしむるの方針なりと云ふ本場内の溪流は多く冷水なるを以て往々灌溉に不適なりとの説を爲すものあり之れ眞の杞憂に過ぎず地盤整理に方り水の土中に浸入するを防ぎ一度注入したる水量が五六日以上保留し得るの設計を爲すに於ては毫も憂ふることなく却つて好結果を見ると云ふ又以て起業家の参考となすに足る

室 蘭 大 観



附録 實業家略傳

(村安知俱) 會我農場小學附近の眞景



蛇田郡俱知安村
會我農場
管理人 吉田秀雄氏

氏は文久三年筑後柳川に生る高等小學以

上の教育を受け稍長するに及んで家政不如意となり家事を助くる爲め官海に身を屈する事數年明治廿二年志を決し屯田兵

室蘭大觀

の募集に應じ輪西村に移住せしに同區は泥炭濕潤にして農耕に適せず具に辛酸を嘗めつゝありしが明治三十年四月會地酸我子爵の厚真に於ける農場管理として採用せられ孜々として其職務に勉勵中付我家が更に俱知安村字ニセコアンに大農場を開設するに至り轉じて之れが管理の重任に當り創業以來之れが經營に力められ其結果として今や農場の地積千六百八十五町四反歩餘小作人百三十八戸を有し一ヶ年の生産高約四万餘圓に達す氏資性英敏にして才識あり且つ慈善の心厚くして人を統御するの徳器を有す故に創業以來些の失態なく圓滿に管理の任を完ふするに至る氏の如きは人の管理者として龜鑑と爲すに足るならん

此田郡 俱知安村
農業家 八反田角太郎 氏

氏は加賀の人地方の重鎮を以て目せらる付て思へらく北海の富源未拓の寶庫を開發して上は拓植の趣旨に答へ上は生計不如意の農民を驅りて團體移住を爲さんものとし同志を携へ郷關を辭して俱知安村に抵り羊蹄山麓煙天日を蔽ひ荆棘徒に繁茂し茅屋を作るに所なく水を得んに道なきの時に處し衆を勵し堅忍不拔の精神を以て墾拓に従事すること二十年此間道路を開闢し寺院及學校を設置する等其他各般の創設經營夥多に

して殆んど名狀すべからざるの苦心に倚て生める成功ありと知らずや斯の如く難戦苦

室蘭大觀



闘竟に能く今日の大富を贏ち得たりし人にして遺憾なく加賀百万石の城下に雄志を鍛へられたるの意志を發揮したるものなるべし氏は資性温厚篤實にして財力ありと雖も之れに矜らず身を持する事儉素に而かも公其心に厚く農業に従ひ商業を

試み着々として立身の状を示す所又一系の亂るゝものなし俱知安今や冲天の勢ひあり角太郎君の眞價を發揮すべき活躍舞臺は蓋し今日以後にあらん乎

此田郡俱知安村基線通り

商業家 小笠原安兵衛氏

村吏より身を興して名を爲す尋常の器にして此成效を得んや小笠原氏の俱知安に名を爲したるもの資産あるにあらず資本家の援助ありしに非ず洵に之れ獨立獨行したるもの後進者須らく鑑み堅忍力行の如何に大あるかを知られよ氏は秋田縣の人付て俱知安戸長役場筆生として奉職し傍ら内室に雜貨商業を営ましめ克苦精勵家産を作して以て門戸を張らん事に力めたり三十一年官職を辭して以來専心商業に従事し爾來精勵匪懈年と共に利潤を積み家産漸く基礎を堅ふするや近時現住所に宏壯美麗にして地方稀れに見る商店を新築し益々家業を擴張せんとするの勢ひを示しつゝあり昔日の一村吏一小店主にあらずして次第に名聲を知られ今や資産家として遠近に知らるゝ基を爲せり氏亦村會議員として現に其職に在り居常公私慈善の事に捐資し又は村吏として實業家として村治の爲め多年盡瘁せられたるもの君を措いて外に見るべきなしと云ふ亦傑士なる哉

此田郡俱知安村

建築請負業家 小野塚要吉氏

室 蘭 大 觀

氏は秋田縣の人身を一大工に起し俱知安村創造の時飄然後方羊蹄山を志して此地に来る赤手空拳一個の墨壺一丁の曲尺以て一家の日計を立て百難と奮闘し窮極に陥て之に挫けず拮据經營寸を延ばし尺をなし丈に繼ぎて成効したるもの其忍久の志操亦世間類を例見ざる所なりとす苦策慘憺十有餘年遂に素志を貫徹して資産を造りたるもの要吉氏の如き亦甚だ稀なり氏は村内屈指の請負業者にして妙技と正確とを以て其名遠近に鳴り各種の注文官廳會社の工事一身に集り營業日に隆昌に赴き家道歳と共に榮へ最近に於ける氏が立身は坦道輕車の走るが如く些の蹉跌を見ずして今日の榮達を見るに至る氏は資性豪放快活にして進取の氣象に富み義俠博愛の心を失はず故に氏を慕ひ其恩義を喋々して其の徳望を世に傳ふるもの多しと云ふ氏が名を成す所以のもの蓋し性行の凡からざるに因るを知るべし

蛇田郡 俱知安村
農業家 田村米次郎氏

氏は富山縣婦負郡朝日村の人二十歳にして商業に従事し大失敗の結果渡道志し決然郷を去つて磯谷の地に航せるは明治二十八年にして漁業に従事する事三ヶ年明治三十年四月俱知安の原野に小作人として移りぬ當時の俱知安は想像外にして老樹天を挾て晝尙暗く榛莽地を蔽ひ荆棘徒に繁茂し茅舎を作るに所なく水を得んに道なく交通機關の不備ひしる岩内に通する一條の險路は發展を沮害せる事大なりき早くも道路開鑿の必要を感じ開墾の傍ら人夫となりて道路開鑿に従事し耐久の念を永遠に保持し將來豪農たらん事を期し刻苦精勵一日の如く資を積み財を貯へ星霜茲に十ヶ年今や俱知安に於ける一等地九戸分を買求め數千金を投じて家屋を新築し尙孜々として怠らず進取の氣は他く迄も逞しく實に得難き農業者と云ふべし氏は父素なる農を好まず周密の農業を本意として大に成効しつゝあり事自然郷里に聞へ年々氏を慕ひ尋ね來る移民二十を下らずと云ふ

室 蘭 大 觀

室 蘭 大 觀



附録 實業家略傳

蛇田郡 俱知安村
俱知安村開創家 山田邦吉氏

氏は阿波國牧野郡古城村の人俱知安原野を開發して茲に一大農場を經營せんものと令弟山田和雄氏等と謀り明治二十五年中人跡不入の曠野に入り家を構へて居を定め當時本村は歩むに道なく食ふに糧米なく一切の日用品は之を遠く岩内港に仰き熊群を闘ひ狐兎を友とし孜々として此處に耕すもの數年辛酸具に背め村事の爲め盡力する所少なからず後ち兩樽鐵道の工事着手せらるゝに及んで土功夫商人等の入り込むもの多く移民の群來大に加里鶏犬相和するの小市街を形成するに至り氏所有地の一部を俱知安停車場に寄付し隨て附近の土地は擧げて私設市街と化するに至る茲に於て地價暴騰數萬の財産を造るに至る上欄の寫眞は氏が來俱の當時營造せし堀建小屋にして紀念の爲め之れを撮影するもの也

虻田郡 俱知安村 字 東 俱知安
江川農場主 江川重太郎氏

氏は徳島縣の人明治三十一年七月十四日本農場の無償貸附を受け三十二年春着手四十
年に至り全地積の附與を受く面積一百二十町歩現在小作人二十戸ありて外に自作畑
二十餘町歩を有せらる明治三十一年の頃人家稀に交通不便なる時に於て此地に居を卜
せる氏は中倶知安の將來發達すべきを看取すると共に私道を開き交通を便にし苦辛經
營地方發達を努力したるの功空しからず現在戸數千五百を有するに至る之れ一は函館
鐵道敷設の結果農産物の販路擴張せられたるに由ると雖も氏等奮勵の結果次第に移民
を招致するに至りたるものにして氏の本村開發上に貢献する所多大なりとす氏は資性
温厚にして義侠心に富み人と扶助すること尤も多く弱者の爲めに一掬の涙を注ぐは氏
の熱情多血を證し得て餘りあり

虻田郡 俱知安村

安養山東林寺

東林寺は北海道膽振國虻田郡俱知安村北一線西三十五番地に在り眞宗本願寺派にして
明治三十六年十一月二十六日安養山東林寺と寺號公稱せり開基住職山階巖城師にして
檀家三百餘戸あり本堂は間口七間奥行九間明治四十二年四月新築せり其上棟式の撮影
前欄の如し(一一二頁參照)

室 蘭 大 觀

室 蘭 大 觀

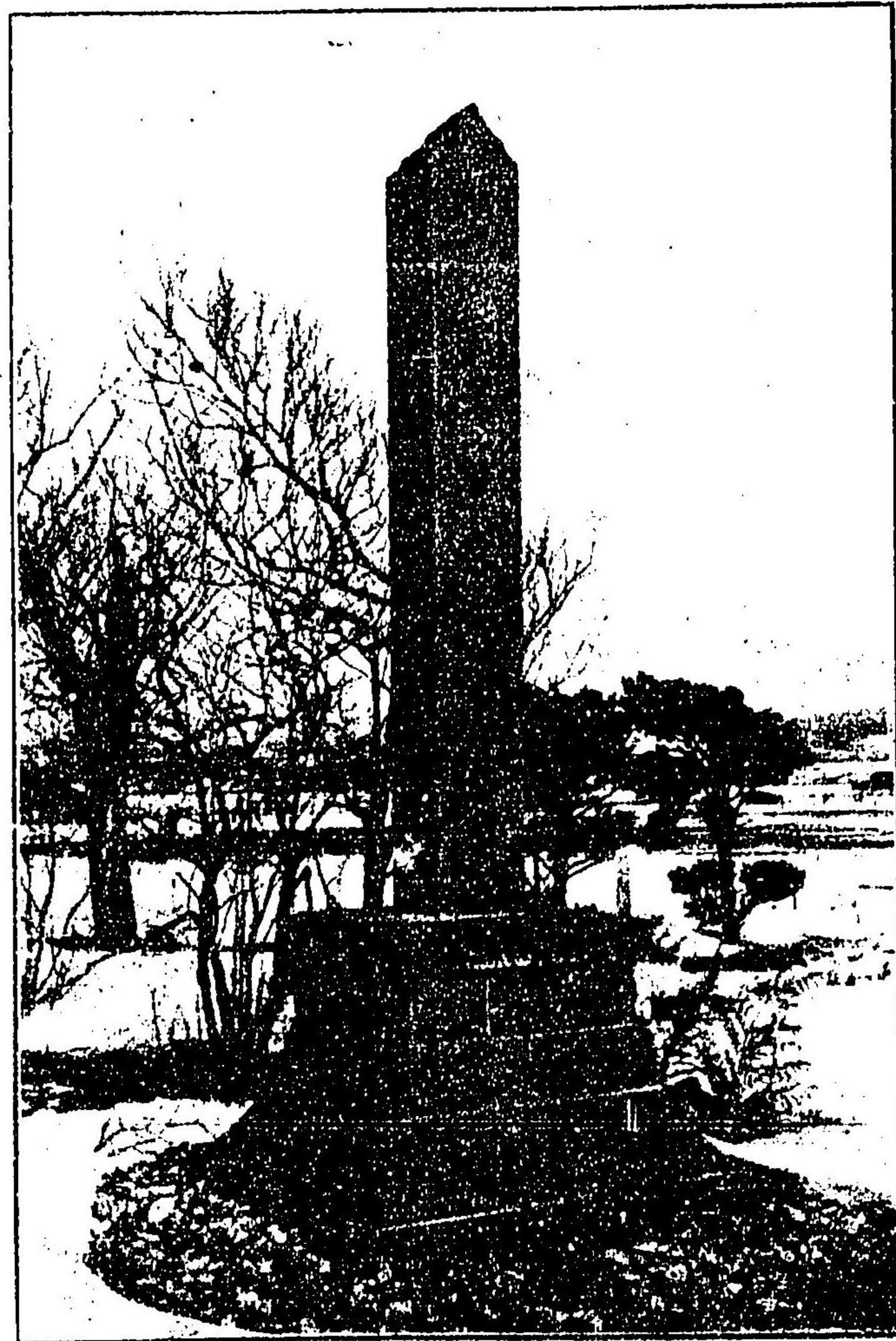
虻田郡 俱知安村 字 比羅夫驛
石材請負業 眞野定一郎氏

身を微々たる石工に起して數年苦困と闘ひ遂に石工職業に成功して資産を造り名を斯
業界に廣め北海の名所比羅夫驛に居を定め傍ら旅人宿及停車場待合を營業とするの氏
は函館鐵道布設の時來りて線路工事に従事し後ち此の鐵道線路を盛んに利用して此地
特産の石材を小樽港に輸送し大に其の信用を博するに至りぬ氏居常多年練磨の妙技を
實地に揮はんとするの念止む時なかりしも今や職人と云ふよりは石材切出請負人の資
格と成りしを以て數人の職人を扶持し業務を擴張しつゝあり今や居村俱知安市街の膨
脹破竹の勢ひを呈するに至りしを以て今後官署の建築物又は商家の營造物等に要する
石材亦多量の産出を促すに至るべく氏の前途や實に多望にして定一郎氏の繁榮は豈唯
だ氏の幸福のみならず俱知安村の幸なり併せて膽振國繁榮の大幸なり

室 蘭 大 觀



附録 實業家略傳



(村別帳) 碑之氏知良藤齋

館主桑次郎氏は三重縣の人曾て大農家た
 榎々連りて四頭暗々たる深山に入り
 熊狐免其間に跳躍するの自らの
 苦經拓の業に從ひ所の資本千餘圓に及
 ぶ然れども時未だ善からず種々の事
 包圍され内憂外患に迫りて居る
 替へ業を替へて之れが改革を企圖せん
 のと意を決し商業の目的を以て耕邊市街
 に轉居せり然るに此地の市況豫想に反し
 尙ほ苦境に陥らんを經營するに及ばず
 負債累累快活にせず頗る進取の氣概に富
 み餘力あれば資を散じて朋友故舊に與へ
 又は公の事業に捐資するの氣概あり世
 人若し氏の事業にたりて一泊を試み其心
 情の温平たるを見られよ(著者誌す)

蛇田郡俱知安村
 旅館業 山本桑次郎氏

齋藤良知氏ハ天保十二年ヲ以テ白石城下ニ生ル家世々舊仙臺藩ノ名門白石ノ城主片倉氏ノ家宰タリ明治維新ノ際宗藩討會之命ヲ受クルニ至リ方向ヲ誤リ奥羽同盟之盟主ト爲リ官軍ニ抗スルニ至ル 朝廷其罪ヲ責メ封ノ半ヲ削ラル白石亦削封中ニ入ル於是良知氏君臣團結北海道移住北門警備之御用ニ相立傍開拓ニ從事シ自營之道相立從前ノ罪ヲ償ハンコトヲ請願シ官之ヲ允ス明治二年幌別郡支配ヲ命ゼラル翌年舊主ニ先立移住シ辛苦萬狀ヲ極メ拓植ノ實ヲ擧ケ舊主ヲシテ叙爵ノ恩典ニ浴セシメラレンコトヲ希ヒ之ガ奔走中不幸ニシテ三十年一月三日郷里仙臺ニ病没ス翌三十一年ニ至リ舊主片倉景光君華族ニ列セラレ男爵ヲ授ナル氏ノ墓碑ヲ舊支配地北海道膽振國幌別郡幌別村ニ建設スルニ當リ片倉男氏ノ誠忠ヲ追懷シ拓殖祖ノ三字ヲ姓氏ニ冠セシメ創業ノ効ヲ表彰シ永ク後世ニ傳エシム氏亦曠スベキナリ

幌別郡 鶯別村

郵便局長 黒澤精之進氏

通信の職に居るもの最も其人を選ばざる可らず是れ其人の能不能は一般公衆の關係甚だ多く其延く所世務進化の沮滯を來すこと甚大なり鶯別村郵便局長黒澤氏の如きは實に其職に適任なるものなり氏は資性温厚篤實にして公共心に富み居住以來能く公共に盡して私事を顧みず専ら地方發達上に就き焦慮せらる今や室蘭港の發達に伴ひ輪西村の發達を促すと共に鶯別村の發達を期すべきの時に當り熱誠氏の如き先輩者あるは當村の幸福と云ふべきなり

幌別郡 幌別村

漁業家 井上伊勢八氏

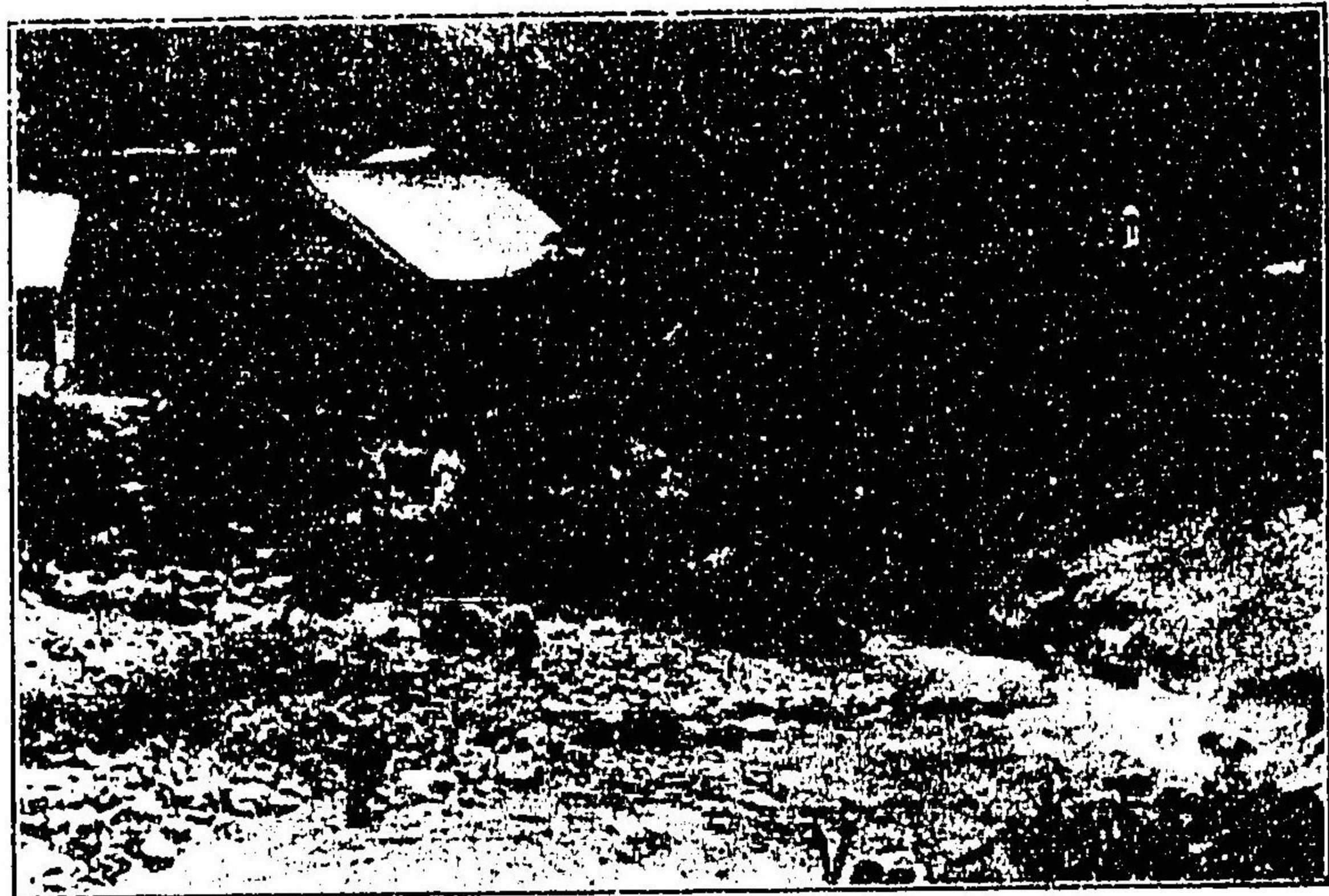
氏は幌別地方に於ける屈指の漁業家にして各種漁業上の經驗に富み且つ近時鱺煮干の製法又は北寄の罐詰業等の試験着業中にありて漁業發達上に就き焦慮せられつゝあり氏は大器宏量頗る義に富む又公共事業に志を注ぐ事深く村の爲め盡す所夥多あり故に其名遠近に轟き聲名甚だ高し

幌別郡幌別村字來馬番外地

幌別村長 遠山彌三郎氏

氏は安政元年十二月二十二日讃岐國仲多度郡六郷村に生る家臣々農を業とす嚴父正躬氏は居村の戸長及勸業係及土木検査係等に勤務され氏は其當時農業に従事す明治九年九月戸長と成り爾來數年に及びたるも家事の都合に依り退職再三の選挙を固辭し嚴君之れに換りて就職せらる十六年九龍警察署巡查と成り二十一年まで勤約家事の都合に依りて依願免職其後農事に従事せらる明治二十六年二月北海道移住を志し學家幌別村に移り二十八年まで粒々辛苦農業經營中二十八年三月鶯別村戸長役場筆生となり勤績四十一年一月三十日に至りて幌別郡各村戸長に任せられ爾來同村戸長として勤績せらる氏は資性温厚實直にして能く職務を守り事務を處理せられ且つ公共心に富み各種公共事に義捐して官賞を受くること數十回に及び又地方教育の普及獎勵等に努め其功績の見るべきものあり懷中時計一個を贈與せられたる如き其他幌別郡各村に赤痢病流行の際患者收容場として無料を以て居家全部を町村へ貸與し村經費を節減せしむ等或は村内に赤痢患者發生の時も前同様の意旨を以て家を貸與せられたる如き一身を忘れて其の或は村公事に盡さるゝの美舉は後者の模範となすに足る

室蘭大觀



附録 實業家略傳

幌別郡幌別村橋の里

橋温泉 洗心館

橋温泉は幌別驛より三里十五町道路平坦馬車に據れば二時間にして此の仙郷に達す山高く水清く空氣新鮮にして風光明媚威々の窮を慰するに足る本泉は日野久橋氏の開きし處にして原とカル、ス温泉と稱せしも明治四十二年夏遞信大臣北海道巡視の際駕を枉けられ此の靈泉に入浴休憩の末橋の温泉と名を改めらる湯は無色透明にして腦病及神經諸病脚氣症痲瘋質斯病等に特效あり

幌別郡 幌別村 漁業家 久本 幸吉氏



氏は元室蘭村の人明治四年
本村に移り漁業を以て一家
を興さんと決心し爾來斯業
に従事すると二十餘年間
に奮勵經營するとなく建網
業を営んで利益を収む明治
十六年推れて村總代人とな
り二十七年幌別漁業組合頭
取となる三十七年水産組合
組長に當選し亦室蘭幌別水
産組に常選となり尙ほ水産
審査員に囑托さる而して多
年水産組合長勤務の功勞に
依り木盃及び銀盃を受く四
十二年室蘭外五郡物産會
に開き鮭を出陳し四等賞狀
を得たり三十九年樺太漁業
に従事し初年は失敗に歸せ
に從事し初年は失敗に歸せ

幌別郡 登別村 停車場前

石材製材兼 土木請負業 和田 吉三郎氏

北海道に於ける土木請負業者なるもの最も其人を選ばざるべからず是其人の能不能は
直ちに要つて交通上直下に蒙る便否至大にして亦拓植上に及ばす所の利害甚だ大なれ
ばなり而して吉三郎氏の如きは實に其業に忠實なるもの所謂其器に適へるものとすべ
きなり氏は兵庫縣但馬國朝來郡生野町の人侍橋本組の配下に屬し各地に於ける鐵道
敷設或は墜道堀鑿或は道路開鑿工事等に從事すること數年の久しきに及べり而して往
年炭礦鐵道敷設の際同組に屬して該工事に從事し爾來居を登別に卜して石材製材の業
を開始せられたるものにして明治四十二年佛坂墜道西方堀鑿工事の請負を爲せり木工
事は着業以來豫定の如く工程進捗し完全に其義務を果さる抑も墜道の堀鑿は一種の技
術に屬するものにして至難の業と爲す氏は獨特の經驗を有され且つ事に處して頗る熱
誠何事と雖も誠實に之を爲して甘心するに到らずんば必ず止まざるの風あり故に這般
の工事も些の故障なく竣工を告げたるなりと云ふ氏は資質温厚衆望あり今や資産豊か
にして家庭圓滿なり地方の名士として仰がる以て其篤行を知るべし

幌別郡 幌別村 漁業家 小堀貞三郎氏



氏は茨城縣の人資性剛直にして堅忍不拔の精神を有し明治二十二年漁業經營の志望を以て移住し爾來漁業に従事して不漁の厄に遭遇せし事なく恰も順風に帆を揚げたる如く順潮に乗じて斯業を營む此間漁法の改良漁具の改善等に意を用ゆるの結果漁獲する所頗る多く爲めに資産を作るに至る而して氏の家庭は圓滿にして且つ家計裕福たり

幌別郡 登別村 字 蘭法華 海産物製造業 鈴木藤八氏



氏は茨城縣の人曾て小樽港に移住鮮魚の輸送に従事せしも氏は元來海産物製造に經驗あるを以て三十四年鯉節製造の見込を立て本村に轉住し爾來其業を開始して年々好成績を揚げ四十二年室蘭外五郡物産品評會に其製品を出陳し四等賞状を受く亦雜魚を以て蒲鉾製造に従事せしは製品佳良にして好評噴々たり

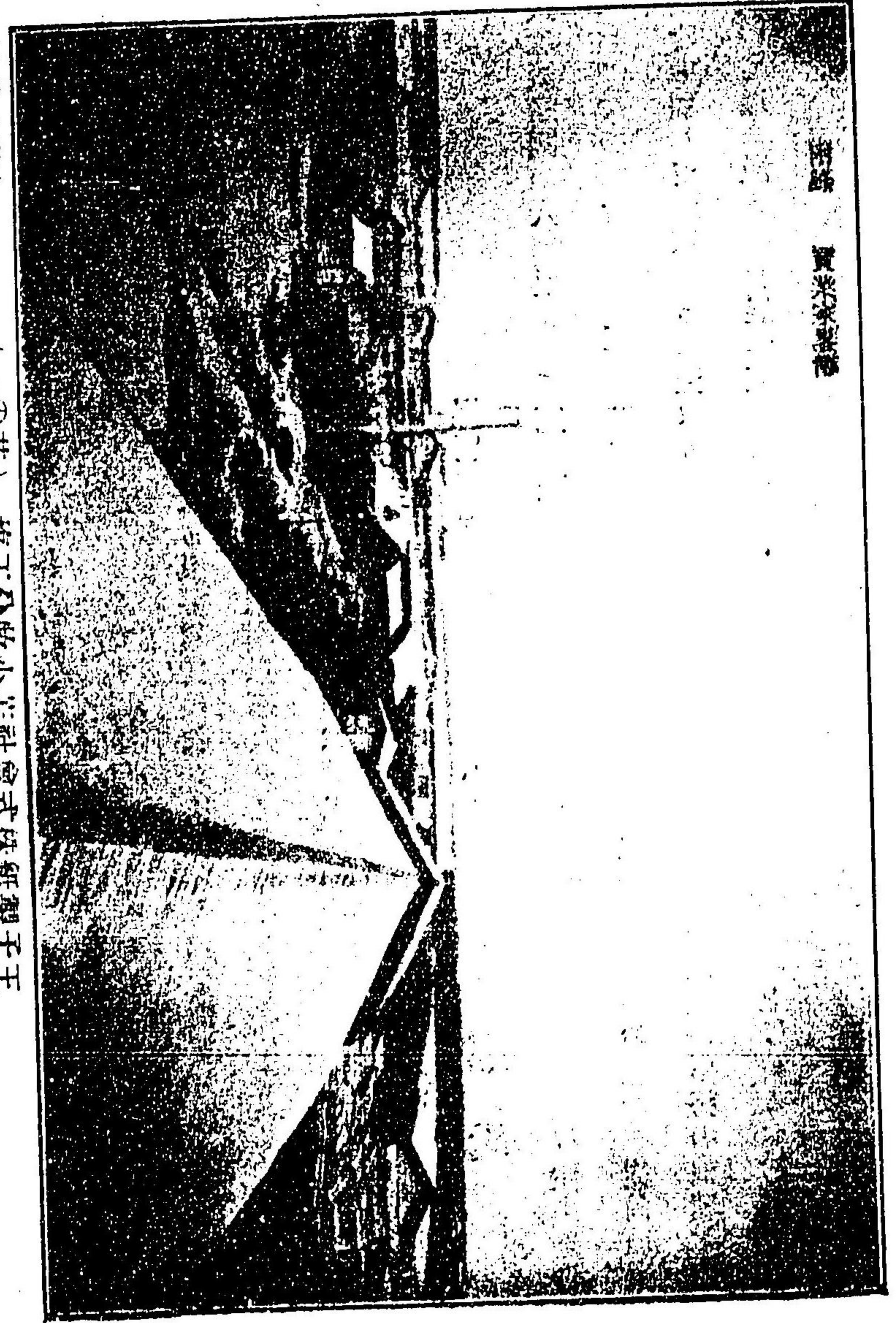
室蘭大觀

氏は兵庫縣の人家世々鯉煮干製造を業と爲す氏は明治二十三年家業開始の目的を以て現住地に來り鯉煮干の業を始めたり其品質佳良にして逐年弊價を博するに至る是より先き當地方は鯉をべ粕と爲せしも氏が開業以來人々其有利なるを認め續々之れが製造を開始するに至り現に郡内の製造高五百有餘石に達すと云ふ

幌別郡 幌別村 幌別水産組合書記 片山九郎氏

氏は淡路國の人郷里又於て憲兵隊内勤務を明治三十九年幌別村に移住するや直ちに入て本村水産組合の書記と成り職務の爲めに精勵盡力の結果紛雜せる従前の事務を處理して遠算なきに至れり氏の才器敏腕は天稟の性なり今後組合事務の整理と相俟つて地方漁業の發展に盡力せらるゝあらば水産業家の幸福此の上なかるべし

室蘭大觀



附録 實業家略図

(村牧小吉) (一の其) 場工分牧小吉社會式株紙製子王

室蘭大觀



(村牧小吉) (二其) 場工分牧小吉社會式株紙製子王

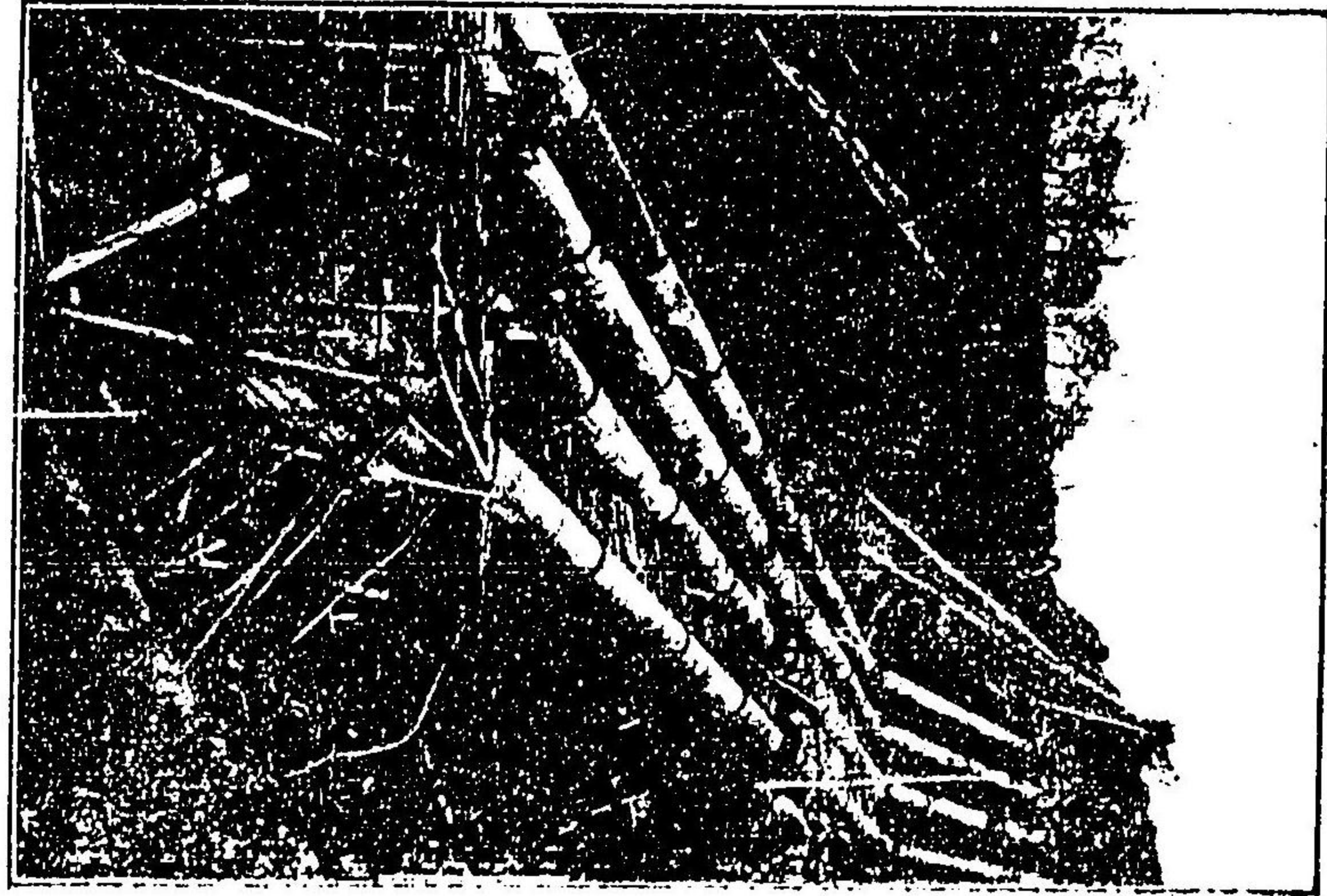
附録 實業家略図

室 蘭 大 觀



附錄 實業家略傳

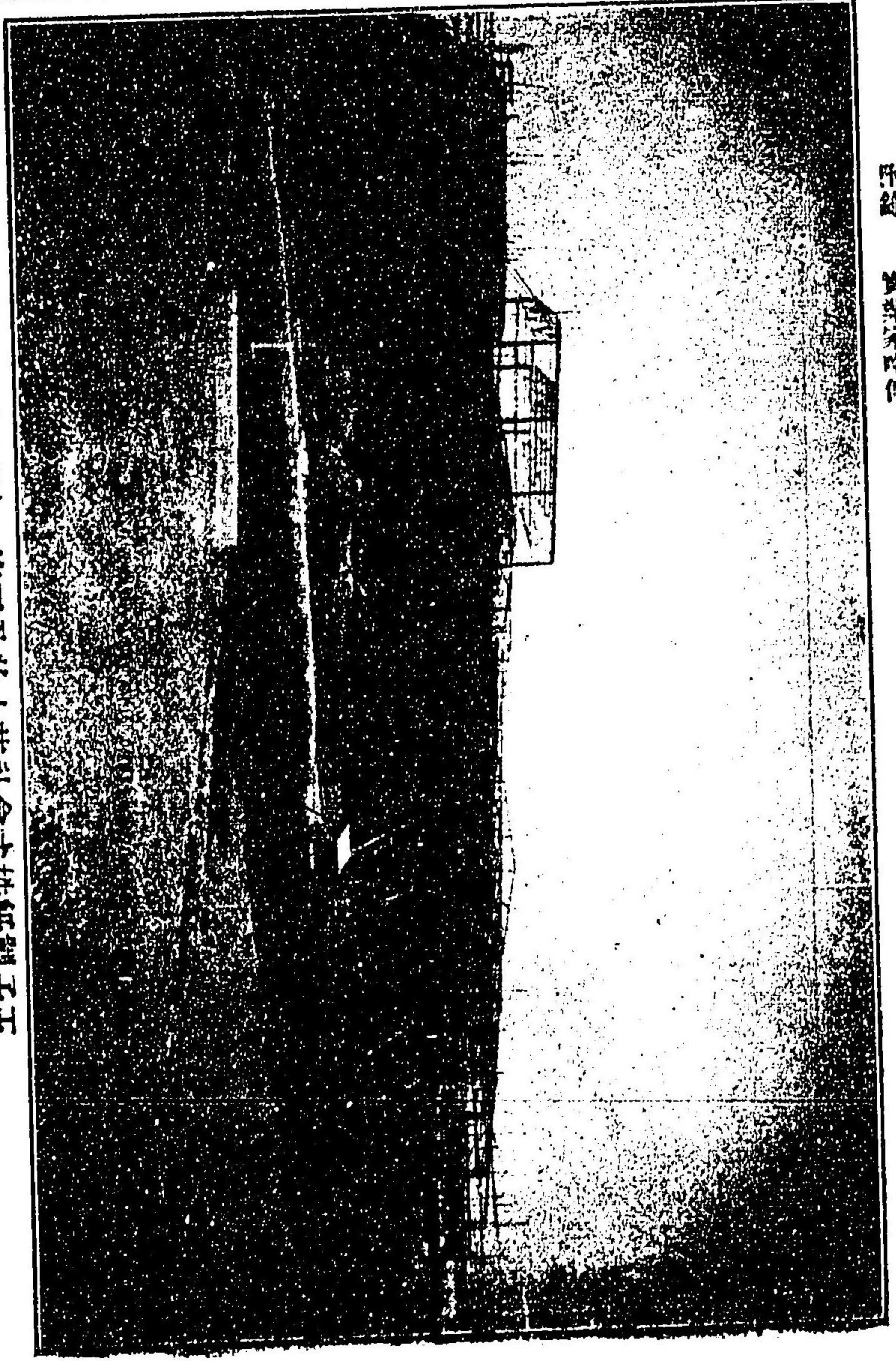
(支笏湖瀧) (水電力氣用水道源) (千歲村)



一四

苫小牧製紙工場所屬發電所用木管(大倉土木組直營に係る工事) (千歲村)

室 蘭 大 觀



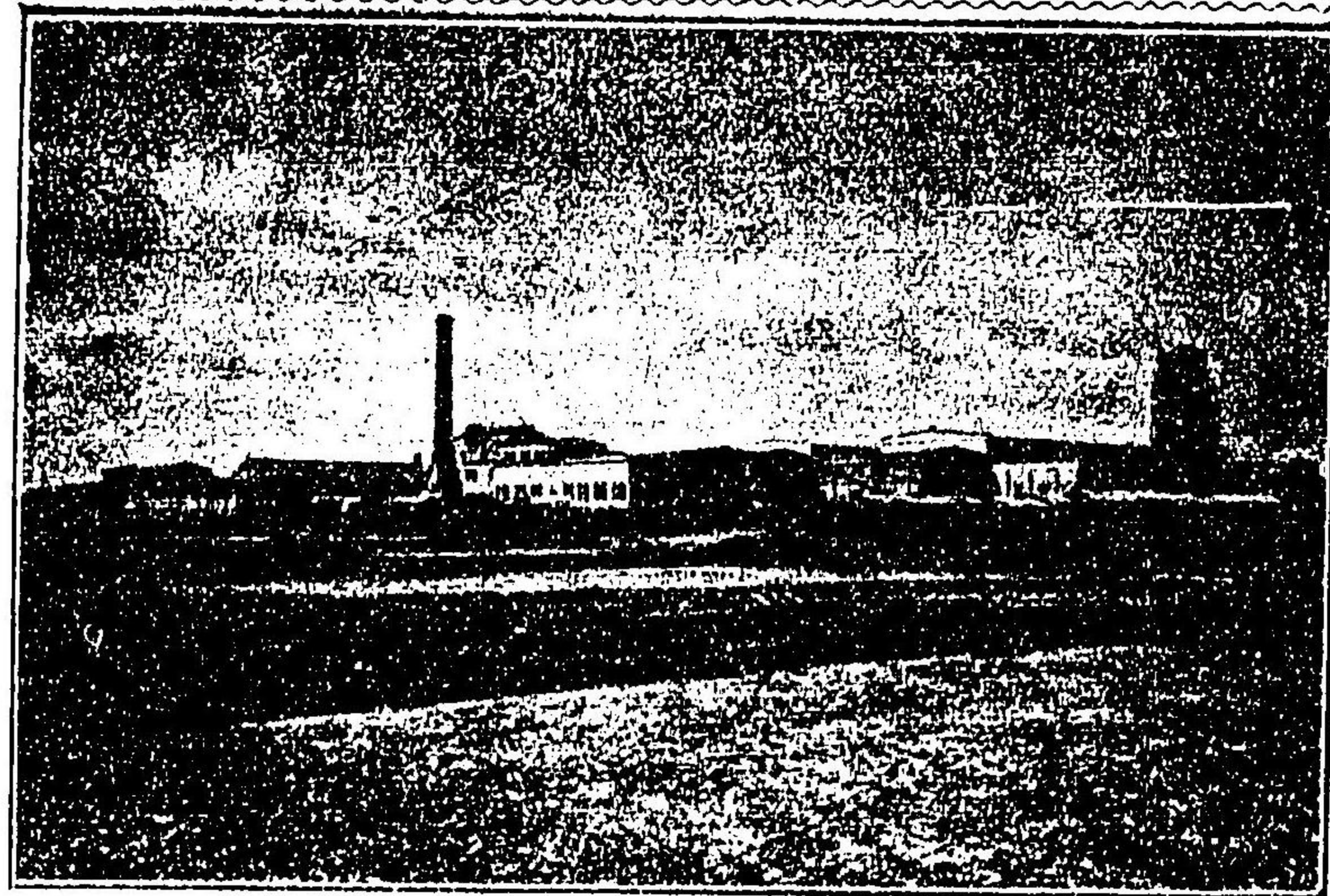
附錄 實業家略傳

(苫小牧村)

(三共) 王子製紙株式會社分工場

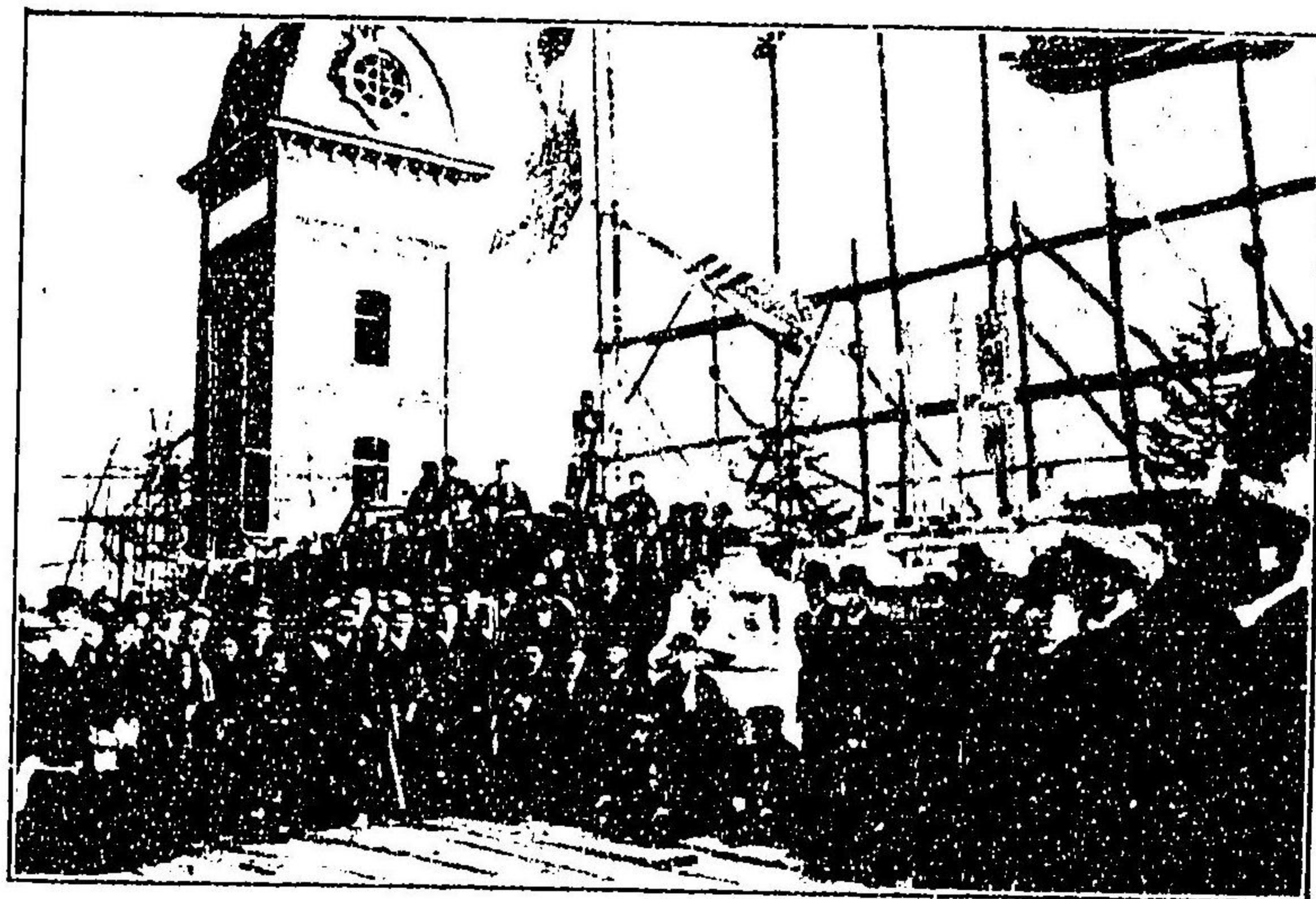
一四

室 關 大 觀



(村牧小苦) 景全場工紙製牧小苦

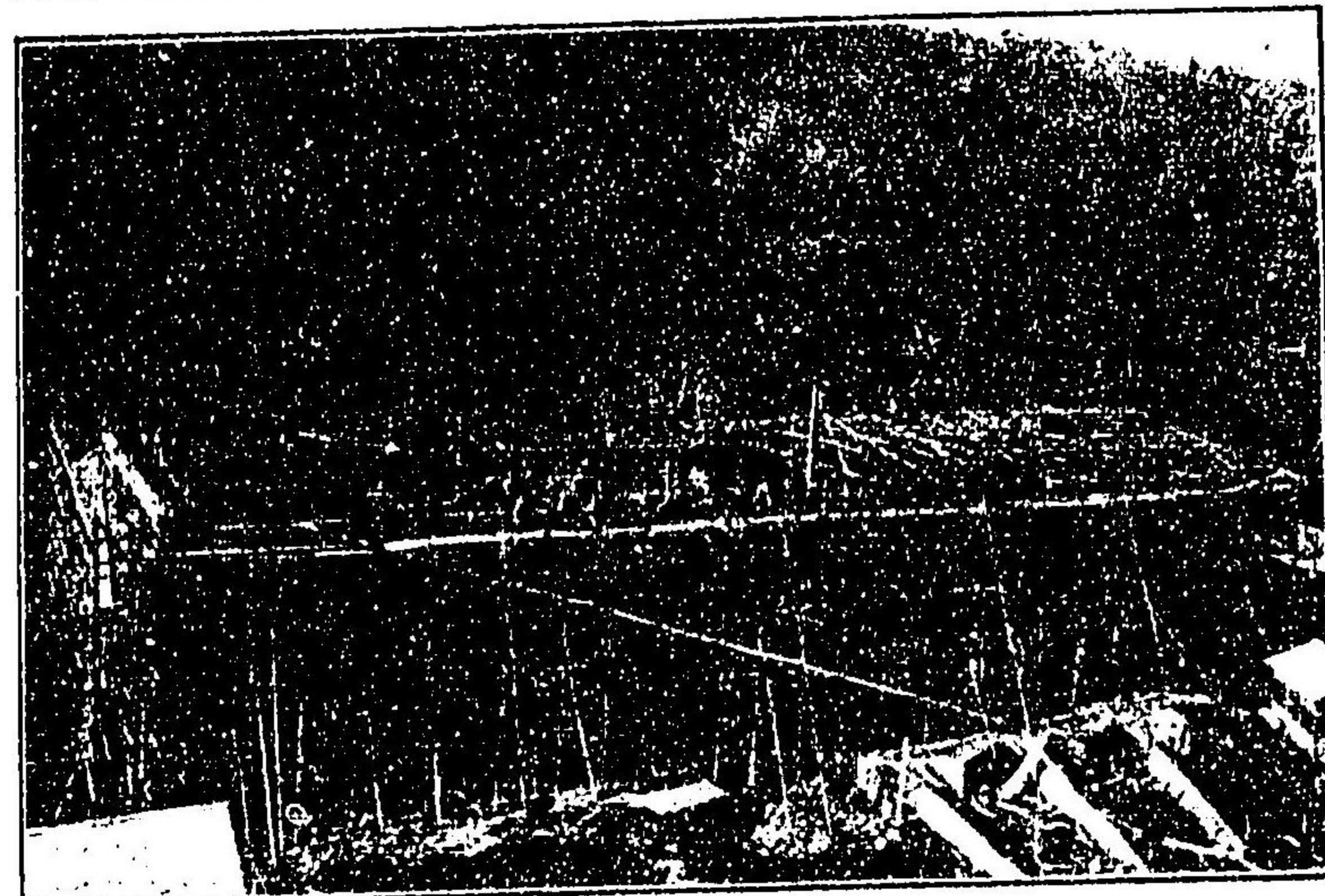
附錄
實業家略傳



(村牧小苦) 况實築棟上場工紙製牧小苦
(事工を係に負請氏郎四久部阿)

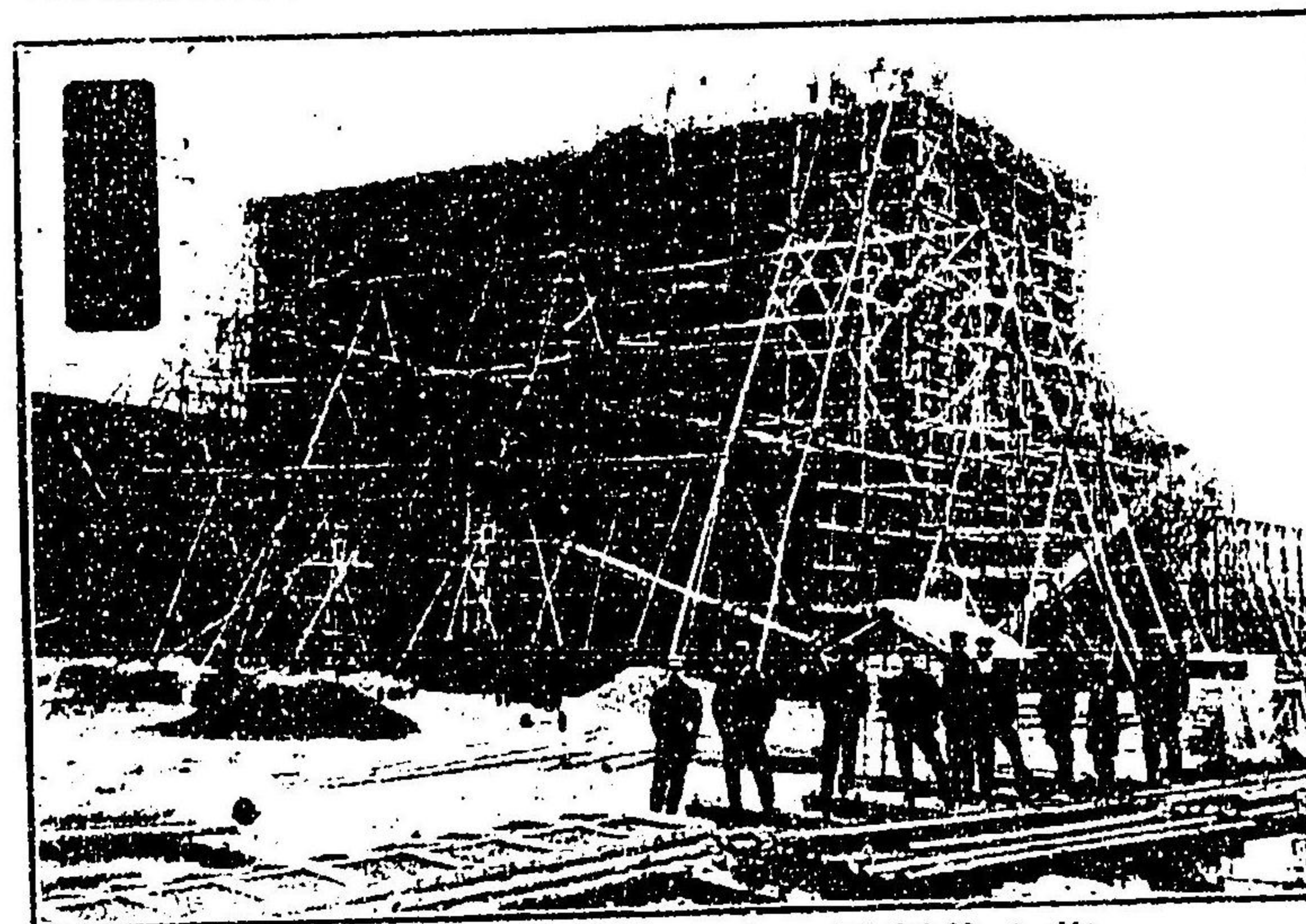
一四九

室 關 大 觀



(村歲千) 所電發屬所場工紙製牧小苦

附錄
實業家略傳

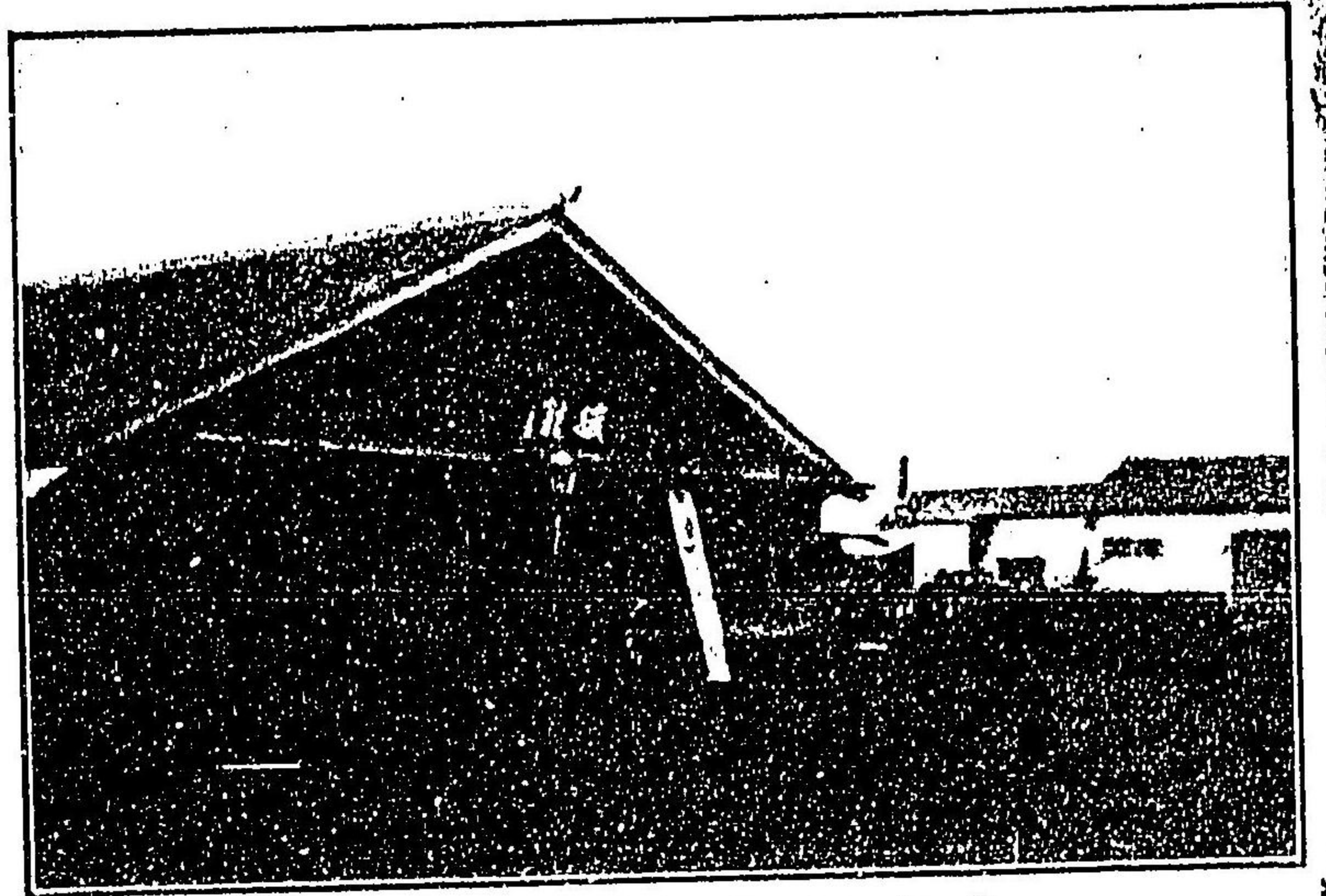


(村牧小苦) 况實築建室釜木場工紙製牧小苦
(景建組代足下配氏吉孫合森)

一四八



苦小牧消防組出初式 (苦小牧村)



鳥島旅館 (丸い旅人宿)

氏は男爵伊達邦成君の舊臣にして伊達村戸長役塲筆生に身を起して以來苦小牧村戸長に累進し次で此田村戸長に轉じ村治上手腕を揮ひて官民間の信頼を博す其後伊達村々長に轉じて村治上亦見るべきの治績あり四十二年滿期更に現職に就職せられ爾來精勵勤務村治の爲め盡力すること例の如し氏は曩きに日露事件の功勞に據り勳七等に叙せられ青色銅葉章を賜り一時金五十圓を下賜せらる亦難得の村長と云ふべし

勇拂郡 苦小牧村

苦小牧村長 手代木茂篤氏

勇拂郡 苦小牧村

苦小牧郵便局長 古田財一氏

氏は宮城縣の人苦小牧村に於ける屈指の徳望家にして亦資産家たり明治十三年室蘭郵便局に奉職以來各官廳歷任の後ち二十三年苦小牧三等郵便局長に任せられ爾來今日に至る其間職務上精勵勤務群を抜く明治四十二年功に依り正八位に叙せられ勳八等瑞寶章を賜ふ以て氏の性行を察すべし

秋田網元祖漁業家 勇拂郡苦小牧村字マコマイ 佐藤 與吉氏

室 關 大 觀



本を漁業に注入し自ら漁夫の群に伍し一統を行へしに果して大々漁を爲せり爾來傍人の之れに習いて沿海沿く秋田網を使用し年々豊漁を爲すに至る故に附近一帯の漁業者氏

氏は秋田縣の人二十六歳の時故山を辭し瓢然函館に抵り日雇夫と成り丸ノ子の分となり途に親分株を占むるに至る往年炭礦鐵道工事の爲め沿線労働者商人等入り込み苦小牧の地商業繁昌し金の巷となりし趣を聞き得たる氏は豁然として此地に來り親分株として働きたり果懐中券の外裕福となれり氏思へらく苦小牧は下場所第一の鰺漁場にして往年豊漁なりしもの漁家年々倒産するの有様なを見て之れが救済策として秋田網を使用せんものと貯ふる所の資

勇拂郡苦小牧村 野島出張所 製罐師 佐藤運次郎氏

室 關 大 觀

氏は札幌野島製罐場苦小牧出張所員として苦小牧王子製紙工場の建築工事に従事せられ多年經驗ある技能を實地に運用するを得て工事の進捗上と場主野島氏の爲めにも献身的精勵勤勉せられたる如き衆人の均しく其技能と勉勵を賞揚する所なり氏稟質寛濶にして世才に富み且つ社交に長ずるを以て苟も人の代理人として外交の衝に當れば彼我相互の間を解決し以て何事も圓滿に處するの器を有す故に人に接する温謙頗る親み易しと云ふ

勇拂郡苦小牧村 請負業家 梅澤留吉氏

氏は元と苦小牧王子製紙工場石材請負人柏木土木部出張所主任として該工事中主人を代表し重大の責任を以て其工事を竣工せしめたるの人今後柏木と關係を絶て獨立の請負業を爲すと云ふ氏は資性沈着にして社交に長じ且つ義侠心に富むを以て今後自己の營業として特獨の技倆を揮ふに至らば好運命を作るに至るや必せり

勇 拂 郡 苦 小 牧 村

大倉土木組出張所

本店 東京市京橋區錦屋町

大倉土木組長大倉久米馬氏は我國に於ける唯一の土木建築請負業家なり明治四十年五月王子製紙株式會社分社苦小牧に於ける製紙工場及附帶土木建築工事を落札するや其の建築工事に屬する部分を下請負人阿部久四郎氏に分擔施行せしめ一面千歳川上流に於ける水力電気工事水路千九百二十間四分墜道四百四十八間八分五厘堰堤八十五間水溜四十六間七分延長二千四百九十八間五分七厘工費二十九萬餘圓を以て本組に於て直營施行中なり而して其の竣工期限は明治四十二年十月なりしも工事設計變更或は會社より材料供給の差支等にて豫定期日を延期し荏苒竣工を告ぐるに至らず明治四十二年十月を以て漸く竣工せり併て本組が營業開始以來北海道に於ける工事の大なるものは往年旭川に於ける建築工事と現千歳川の水路工となす本工事の遅々竣成せざる主因は材料供給に就て山中の事として會社の意の如くならざりしに因る而して現工事擔任者小島喜作氏の補助として本工事に勤勉せられたる出張員の氏名左の如し

藤原八十吉。中川顯三。本多増一。太田雅太郎。増山鐵雄。

室 蘭 大 觀

札幌區南六條西六丁目

土木建築請負業家 阿部久四郎氏

札幌區南六條の宏壯なる邸内に紳士及配下等出入繁昌しつゝあるを阿部氏の邸宅とす氏は新潟縣の人建築請負を以て老練の名あり明治四十年五月より王子製紙會社苦小牧工場及千歳川上流同社工場附屬發電所工事其他社宅等の請負に従事せられ明治四十二年十二月を以て竣工を告げられたり

勇 拂 郡 苦 小 牧 村

東京中村組出張所

請負業家 中村友二郎氏

氏は屈指の齋職請負業にして併て王子製紙會社の諸工場建築に従事して以來同社の工事に専屬す該社收小牧製紙工場建築のことあるや氏は抵りて齋職其他の小仕事機械の据付等大倉組及阿部組の外に超然立て従事しつゝあり

室 蘭 大 觀

札幌區南三條西五丁目八番地

請負業家 森合孫吉氏

電話一〇〇七番

室蘭大觀

氏は函館港の人明治五年五歳の時嚴父と共に札幌に移住十九歳初て為職となり爾來師に從ひて各官署會社其他の工事に實務を研究して遂に獨立營業するに至り阿部久四郎氏の配下に屬す氏が最近に於ける主たる請負工事のヶ所を表示せば旭川師團工事東北農科大學校金山の富士製紙會社工場岩見澤の工事江別富士製紙會社工場室蘭の高架棧橋及王子製紙會社苦小牧製紙工場及同社千歳川上流に於ける水力電氣工事等にして就中其成績に於て見るべきものは旭川軍隊の馬屋建築工事の足代面積坪數一萬二千坪を十二日間内に山本氏と共同竣成せしめたるものとす而して苦小牧製紙工場の煎釜室建物千歳川上流發電所等の足代に至りては實に宏壯なるものにして此の工事に於ける氏の現場にて職務の爲め墜落死亡せるものあり氏は之等死亡者其他の現場に於て死亡せし者の追吊として招魂碑建設方を主唱せらる本書苦小牧の部差し繪上棟式寫眞を紀念として掲げたり氏は資性質朴にして貯蓄心に富み今や數萬の資産を有するに至りたるも豪奢に流れず部下を憐み扶持するもの數十人に及ぶと云ふ氏も亦偉物なる哉

札幌區南七條西一丁目十三番地 建築請負業家 小野文藏氏

室蘭大觀



氏は秋田市の人十二歳の時大工職の徒弟となり爾來鋭意勤勉師に仕へて身に薄く主に厚く辛難艱苦遂に名工と稱せらるゝに至る明治二十三年札幌に至り大工を業として一意唯々家産を作し力めて其門閥を表さん事に勞めたり此間能く働き能くこどなし故に家門漸く榮るて資産充實するの幸運を生めり最近氏の請負に係かる主たる工事は札幌農科大學校舎、札幌停車場、江別富士製紙工場、拓植銀行、道廳假廳舎、苦小牧製紙工場等の部分工事に於て苦小牧の厚し氏の内室亦能く社交

札幌區北三條西三丁目一番地

金物業兼 橋本秀松氏
土木請負業



氏は文久二年九月二十五日福井市月見町に生る父を彌三八氏と云ひ精米を業とす秀松氏志を北海に懷き明治十三年渡道開拓使工業局及札幌間鐵道又は手宮鐵工場等に奉職十五年に至り札幌に鐵力職を開業す之れ當區に於ける該業の濫觴なり然るに當時開拓使廢せられ市況不振の爲め遂に廢業して十七年より再び鐵道に従事する

室蘭大觀

室蘭大觀

こと七年間而して二十四年九月を以て再び鐵力職を開業す爾來店舖を新築し業務を擴張し及細工場を設けて諸般の設備を完成し終に金物商並土木建築請負業をも兼ね今や鉅萬の資産を造るに至れり四十二年春苫小牧製紙工場屋根マルソイト、ルーフィング葺工事此坪數六千餘坪の請負を爲す此建築工事は室蘭に於ける日本製鋼所工事と相並んで東洋唯一の大工事と稱せらるものにして氏が從來經驗なき新式のマルソイト、フィング葺屋上工事をして些の故障なく期限内に竣工せしむるに至りし活腕は賞し得て餘りあり氏は資性實直にして起業心に富み忍耐不屈の精神は以て今日の成功を爲さしむるに至る亦超凡の人物なりとす

札幌區南三條西二丁目五番地

請負業家 菊川竹次郎氏

電話六百九番
電略 キク

氏は建具指物製作販賣業者中屈指の營業者にして又名望家たり開業以來評判甚だ宜し

室蘭大觀

明治四十二年中王子製紙會社の苦小牧工場に於ける建具類一式を請負はるゝや期間内に納品の義務を了し又室蘭に於ける武揚尋常小學校成徳尋常小學校室蘭町役場の建具及日本製鋼所に於ける残工事の建築等に從事して完全に其の竣功を告げたるの手腕に至りては同業者をして轉た嘆賞せしむ之れを要するに平素營業上の準備に怠りなく各種材料を貯藏するの結果なりとす而して氏は亦貯蓄心に富み専心家業の發達に力けるを以て近時資産年と共に増殖し聲望隆々として遠近に鳴る氏少壯の時に於て一個の指物職人たりしもの幾多の機才謀略を運らして或は職人をして指物を製作せしめ或は之れを販賣して商業行爲をなす等着々萬緒を截斷し毫も家勞の失墜を招かざるは以て其守成の才あるを見るべく己れ微々たる職人として前途の望みなきを悟るや決然方針を轉じて集團的製作業に従事し尙ほ進んで之れが販賣の途を講ずる商行爲をなして而かも些の失計なきは創業の才と相待て守成の才あるにあらずんば能はざるなり又斯業界稀れに見る人物なりと云ふべし

札幌區南六條西二丁目角
請負業家 宮原磯次郎氏



米内山、及川等の諸氏とす北村氏は氏の門弟として技藝堪能才智あり其の門戸を張るる家政の回復を企圖しつゝあり又偉才と云べし

札幌區大通東三丁目一番地

野島製鐵工場主

野嶋初之助氏

電話六百六十九番

室蘭大觀

氏は富山縣上新川郡向新上村の人明治十六年十五歳の時札幌に抵り營繕部勸工場及其他の工場に技街員として或は職長として就職せられ札幌間に其名高し明治二十七年八月工場を起して獨立營業するに至る氏は王子製紙會社苦小牧分社製紙工場鐵骨建築工事の請負を爲すや熟練なる技師及技手を特派し以て之れが組立てに従事し請負期間内に之を竣成せしめたるの手腕に至りては誰か之を敬服せざるものあらん本書挿し繪苦小牧の部鐵骨組立の寫眞は氏の請負に係るもの紀念として之を掲ぐ氏は資質豪放磊落にして技藝に長し且つ諸般受注文品は勿論工事等請負期日を遷引する如き事なく約束を實行するの特長を有し加之營業上に熱心なるを以て歳に月に業務繁榮に赴くの景勢なり思ふに氏や初め職工より身を起して今や一個の工場を自營するに至りたるもの盡く是れ苦闘の賜物あり堅忍の結果たり之れをして偉なりと云はずして將た何をか偉なりと謂ふものあらんや(苦小牧挿し繪寫眞參照)

勇拂郡 苦小牧村

建築請負業家

赤川源太郎氏

室蘭大觀

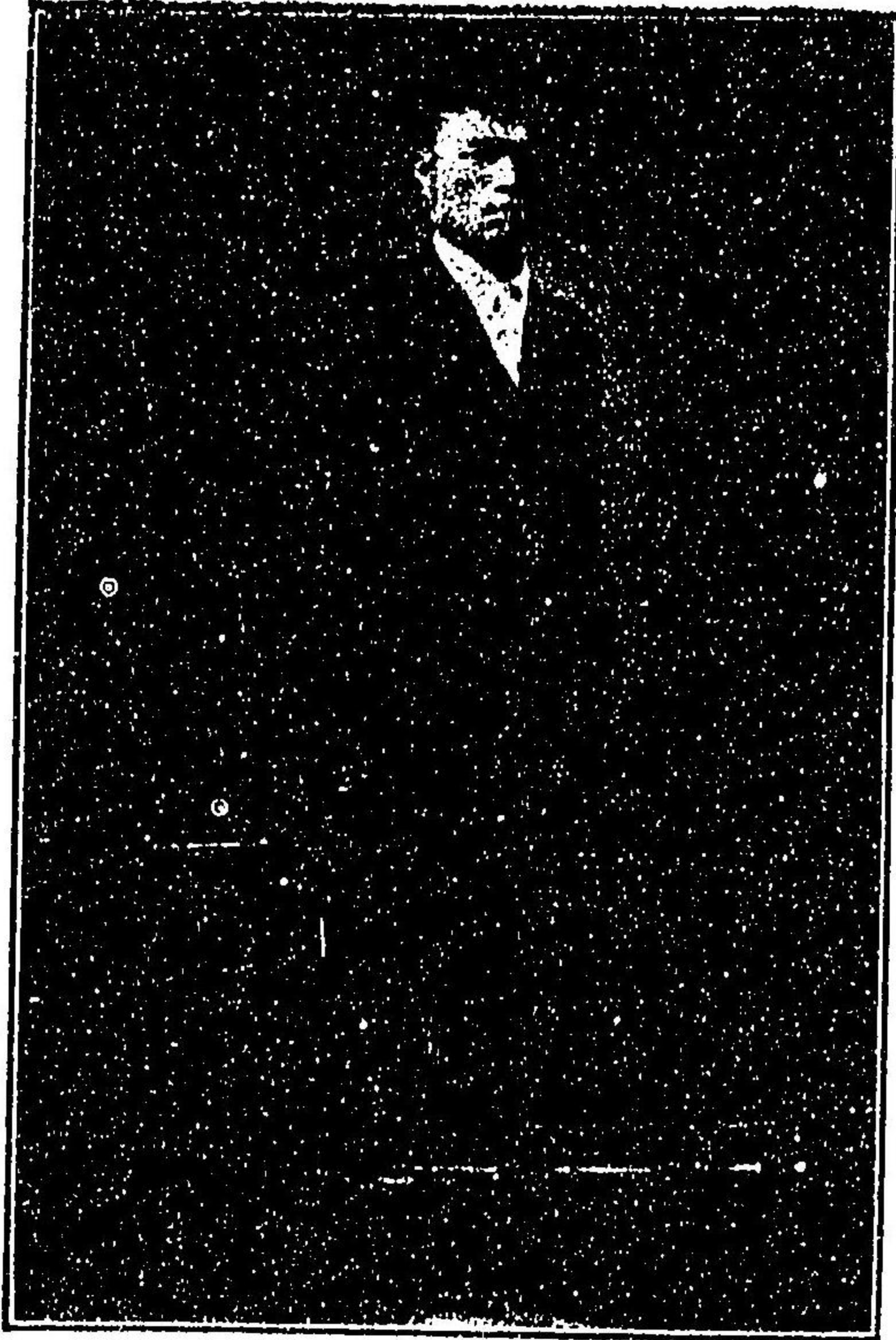
氏は文久三年を以て新潟縣西蒲原郡に生る付て大倉土木部に屬して旭川に於ける七師團建築工事を管掌す明治三十五年一旦歸國せしむ四十年に至り再び渡道重谷材木部に屬して七師團の建築工事を支配せり亦四十年五月王子製紙株式會社苦小牧工場の土木建築工事が大倉土木部に落札するや其工事を割びて一部を同組の直營と爲し他は阿部組に於て下請負を爲すに至り氏は其配下に屬して千歳川上流に於ける發電所社宅及苦小牧工場木釜室其他の工事を請負ひ日々血氣の職人四十餘人を就業せしめ四十一年六月着業以來間斷なく其工程を進め辛苦經營只竣工期間の遅れざらん事に留意し遂に豫期の如く四十二年十二月を以て完全に其工事を竣成せしむるに至る氏は資性濃厚寡言にして技藝堪能亦極めて同情に富む所謂赤血多感の人にして苟も他の困窮を見る時は己れを捨く、猶ほ之を厚ふせむとするの信あり而かも一度び事に當つて自ら既に決する所あれば斷乎として動かさるもの泰山の如き氣概あり此頭梁にして此氣概あり一般信頼の厚き決して偶然にあらざる也



勇拂部 苦小牧村 政次郎氏
土木請負業家 幕田

因せざるはなし幕田氏は茲に見るありて其配下を愛し共同
完全に竣工せしむると云ふ内室ナヲ子氏亦能く配下を愛す
以て氏が下部屋の頗る圓滿なるを知るべし

氏は岩手縣の人明治二十七年
組に昇進して北鐵線に從事し
又旭川射的場其他の工事に
従事せり明治四十一年に紙
工場及千歳川上流に於ける
水力電氣發電所工事に従事
せられ部下を督勵して實直に
盡力せらる氏は資質に憐む
して義侠に富み配下を憐む
こと親子の如し故に人を感
仰慕し同業者間に重きを爲
すこと云ふ由來請負人の缺點
は皆な請負人と配下の閉結
力の少なきに在り共同一致
心の乏しきにあり此の二事
失敗するもの此の二事に歸
一致事に當るを以て工事を



勇拂部 苦小牧村 政次郎氏
請負業家 三澤庄太郎氏

に城府を設けず極めて淡泊にして義侠心あるを以て同業者
少壯血氣未だ小成に安んぜず斯道を研鑽して以て斯業界に
發達を慮り萬苦を排して斯道を研究したるの明感服に價ひ
せんとせんや

附録 實業家略傳

身を工藝界に起して早く既
に技藝家と成り専心斯道の
研鑽に委ね好んで各地の建
築工事に處し三年を以て他
かす其蓄する所を以て他
日の大成を期せんとするも
の之れを三澤庄太郎氏と爲
す氏は幼より工藝を嗜み斯
業に従事せし以て一日も怠
る事なく数年の積雪を積んで
顧みず數年の積雪を積んで
其總興を極むるに至る而し
て于子製紙會社小牧工場
建築工事に従事するや數多
の部下を督勵して大に工
の進捗を計り會社事業上の
資性快活にして人々に接する
間の信頼厚し然れども尚ほ
雄飛せんことを豫め工業の

室蘭大觀

氏は新潟縣西蒲原郡間瀬村の人明治三十二年渡道曾て阿部組の配下に屬し旭川に於ける第七師團の建築工事に従事し其後各地の工事に従事して斯業の經驗に富む明治四十年又同組に屬して赤川源太郎氏と共に王子製紙會社小牧製紙工場の一部を建築するに從事せり此工事は宏壯にして工務家を以て驚嘆せしむるものあり氏も亦技藝上研學に値ひせりと云ふ氏は少壯血氣にして敢爲の氣象に富み前途亦多岐の人も亦氏の從事せし工場の大事を擧ぐれば左ノ如し

工場木釜室ダイセシタ同シクリン室ウエツトマシン器械室變壓所水槽塘マシン室等とす前欄木釜室寫眞參照を要す

室蘭 港 母 戀 松 田 出 張 所
煉化建築請負業家 松田伊太郎氏
東京市本郷區富士前町六十番地
電話下谷二七一六番

氏は舊金澤藩士にして煉化建築及製造を業とす日本製鋼所工場の橋本組に落札するや同組に屬して煉化積工事の請負を爲し期間内に之を竣功せり其他鐵道院所管の鐵道復線墜道の工事の橋本組請負に係る煉化積工事も氏の請負ふ所となり四十二年春若くは且つ才識あり而して家業に熱心ある所同業者中稀れに見る人物なりとす

室蘭大觀



札幌區南六條西一丁目
土木建築請負業家 中村與四郎氏

鑿せられ其觀光の美と相待て車輪の軋すること恰も軌條を逸奔するが如く實に模範道路として見るべきものあり本工事進捗の成績に付監督技師の賞言又は六部長より懇篤なる電報を以て賞揚せられたりと氏の工事に深切にして確實なるを證すべし

附録 實業家傳略

一七

氏は福井縣の人東本願寺別院を札幌に建設するに際し備はれて明治十二年十二月に禮幌に抵り寺院建築工事に從事して家計を營む術來に儉苦困と闘ふもの十有五年遂に本來の素志を達して巨万の財産を造り當區請負人中指を屈せらるゝに至る氏資質剛直にして亦決斷力に富む故を以て人を信じ自らを信ずるの氣骨あり明治四十二年韓國皇太子殿下北海道上御見學に際し其通路に方苦小牧より日高國境に至る國道修繕工事の請負を爲し同年五月着手九月竣功せり該道路は坦々砥の如く築り該道路は坦々砥の如く築り該道路は坦々砥の如く築り

札幌區南七條西一丁目十二番地
土木請負業家 宮尾權次氏

氏は明治元年十一月九日を以て新潟縣北蒲原郡岡分村に生る夙に北海開拓の急務を想ひ明治二十五年渡道札幌に至り爾來嚴父と共に拓植事業の原礎たる土木工事に従事せんを期し之れが請負に従事す嚴父は橋梁工事の經驗に富み本道各地の橋梁架設工事に従事して屢々巨利を得たることあり就中鵝川橋梁架設請負工事を以て最とす氏は明治四十二年室蘭支廳管内に於ける沼の端勇拂間道路延長一里半餘工費一萬二千九百餘圓を以て請負を爲し同年十月二日着手十二月二十三日を以て設計の如く完全に竣功せり本工事は砂利敷きに多分の工費を要せしに依り日々八十臺内外の馬車群を爲し土功夫亦百二三十人づゝ出働せしを以て現場大に盛況を呈せり此の道路の爲め將來地方交通上に至大の便益を興ふると共に請負人たる權次氏の功勞を永久に特記す氏は賦稟極めてにして活動の才あり故に氏の望希や遠大にして機に觸れ時に遇はゞ本來の抱負を伸べん事を必せり由來北越の人本道に於て比較的成功せり氏も亦成功如此を得んや

室蘭大觀

青森港の概況

室蘭大觀

青森市は陸奥國の東北端に位する開港場にして北方一帯は青森灣の渺茫たる蒼波に枕み東西南の三方は東津輕郡に界し田園遠く開け村里接す海上は津輕海峽を挟みて北海道と相望み更に北すれば樺太島と遠すべし露領沿海洲は日本海の對岸に在り清韓の地之と昆運す而して海路五十九哩を隔て、函館に對し順風浪靜かなるときは僅かに四時間を費して航行するを得又北海道東海岸の盡頭たる室蘭港へ海路百九哩ありて十二時間を費して達するを得亦陸路は三陸に通ずる東北鐵道あり兩羽に達する奥羽鐵道ありて青森驛に聯絡し海陸船車の接續交通機關の設備稍々遺憾あるなし只だ港口北方に開け灣門廣濶に失するを以て一朝西北の暴風起るに會せば貨物の揚卸は勿論船舶の安全も又保ちがたからんとす而して東西五十餘里南北四十三里餘面積八百七十一方里餘を有せる青森縣廳此地に在り形勢の勝運輸の便實に東北屈指の一大都市たり
本港は明治初年に至るまで津輕藩の領分にして陸奥國津輕郡外ヶ濱郷に屬す寛永十年津輕藩本港に假屋を設け守兵を置き以て邊境の不虞に備へ今の縣廳所在地は則ち其場所なり元祿年中城代を派遣して政治を布き後之を廢して町奉行、湊目附、町年寄等の諸役人を置く中世に至り天明の飢饉安政年中二度の大火災等ありて民力の發建を阻害

せしこと鮮少なりとせず明治維新の際藩廳を本市に移し蓮心寺を以て其廳に充て藩主津輕承昭氏は藩知事たり是れ實に明治三年一月なり翌四年藩を廢し弘前縣と改め中央政廳を弘前に置く同年十一月青森縣と改稱し次て縣廳を此地に移されたり其當時北海道の福山地方は津輕郡に屬し及び陸奥國二戸郡等何れも青森縣の所管たりしに明治九年に至り分割して福山を開拓使に二戸郡を岩手縣に屬せしめたり方今青森縣の管轄は弘前市、青森市、東西南北津輕、上北、下北、三戸、二市九郡即ち八ヶ町百六十一ヶ村なりとす明治十一年郡區制度の發布あるや青森は東津輕郡の管内に屬し同二十年市町村制實施に當り市民は市制實施を希望せしも當時長島造道及び榮町の三大字を東津輕郡より分離して本市に合併し町制を布かる爾來世運の進歩と土地の發達は市制の實施を促かして止まず遂に明治三十年隣村浦町の全部及瀧内村大字古川の一部を殺きて本市へ併合し翌三十一年四月市制を布きて青森市と稱す輒近青森市に於ける經濟界に著しき膨脹の機運を興へ日進月歩の勢を示し現時の人口實に四萬七千二百餘戸數九千九百餘を算するに至り三十七八年戰役の交本市は樺太軍の策源地となり殆んや東北の宇品たる觀ありしなり

由來青森市は寒煙寂漠たる陸奥灣に濱する一漁村にして寛永三年頃には青森村と稱し之に市街の名稱を附したるは實に貞享四年なりき明治維新の際には青森三千軒と稱し其堤

室 蘭 大 觀

川以東の地は落々たる原野にして唯だ牧馬の群を見るのみ今日の濱町は寂寥として海濱一帯の地は荒波陸岸々打つて只怒濤の聲を聲くのみ左れば今を距る四十年前の青森を回顧せんには轉々今昔の感に耐へざるものあり而して現時の青森縣廳附近は農家班々指を屈して數ふるに過ぎず真に現下の市況を呈したるは全く日清戰役後にありて存す而かも日露戰役後の今日に於ては青森港を以て軍港と爲し北海道及樺太に於ける生産界の發達進歩に伴ひ本港をして一層樞要地たらしむるの關係あり況んや日某の親交一朝相破れ不幸にして戰端を開始せらるゝの時ありとせんか彼我石炭の供給地は室蘭港を措て他に之を求むべからず果して然らば本洲の盡頭たる青森港は其有事の際に於て軍港と爲し平和の日に於て商港と變ずるは地理上經濟上の關係に基くものにして又兵馬の權を左右するの要港たり故に本港は將來益々室蘭港と接近し米國巴奈府運河の開通と相待て太平洋の航行船舶に對し石炭又は飲料水の供給港と成すに至らずとするも其の特産物たる苹果又は其他の國産物を室蘭港に輸送し更に米清、日米、日清等の貿易に對し大なる商路を樹てざるべからざるの時運に向へつゝあるなり而して本港は港口東北に位し錨爪を爬入す且つ港内廣くして大船の碇繋に便あり其泊地の海岸を距る二十二三間にして水深九尋に達し底質善く其深淺に至りては滿潮のとき六十六尺餘に達し干潮のときに在りても尙ほ六十尺以上の深さを保存するを以て優に一萬噸餘の

より高き事約二百四十尺也水道線路は八重菊を起點とし横内外二村を經約三里にして本市に達す沈澄池瀝水池及分水池は横内村大字横内の南方字櫻峰に設け配水量は防火用を加へ一秒時間に最大七立方尺弱の豫定也四十年秋東宮殿下行啓の際御旅館へ配水の設備を爲せしに幸に御料水として供進せらるゝの光榮を得たりと工費豫算は八十三萬圓内四十八萬圓は本市の分擔にして廿萬圓は國庫補助十五萬圓は縣費補助に係る本工事に要する鐵管は全部内國製を使用し其他の器具材料も僅少の物の外總て内國製也

青森市銀行及諸會社

會社名	資本金	創立年月
株式會社青森縣農工銀行	六〇〇、〇〇〇	明治卅二年六月
株式會社青森商業銀行	四〇〇、〇〇〇	同 廿七年八月
同 青森貯蓄銀行	三〇、〇〇〇	同 廿九年六月
同 青森貯蓄銀行	六〇、〇〇〇	同 卅三年二月
同 五十九銀行青森支店	二、〇〇〇、〇〇〇	同 卅二年九月
合名會社安田銀行青森支店	二、〇〇〇、〇〇〇	同 卅二年五月
株式會社弘前銀行青森支店	三〇〇、〇〇〇	同 廿九年一月
同 青森電燈會社	三〇〇、〇〇〇	同 廿九年三月

室蘭大觀

同 青森倉庫	一〇〇、〇〇〇	同 廿九年七月
青森鐵工株式會社	一〇〇、〇〇〇	同 四十年五月
青森精米合資會社	六、〇〇〇	同 廿七年十二月
青森共榮合資會社	八、〇〇〇	同 廿九年十二月
盛融合資會社	五〇、〇〇〇	同 卅一年十一月
大世淡谷合名會社	五〇、〇〇〇	同 卅五年十月
齋藤木場合名會社	一、〇〇〇	同 四十年十一月
金融合資會社	二、〇〇〇	同 卅四年二月
青森海陸物產株式會社	二〇、〇〇〇	同 四十一年三月
青森郵船合資會社	五〇、〇〇〇	同 四十一年八月
弘前農具株式會社青森支店	一〇、〇〇〇	同 四十年六月
青森回漕合資會社	六五、〇〇〇	同 卅九年五月
青森青紙合資會社	四、〇〇〇	同 卅五年十一月
青森ラムネ製造合資會社	五〇、〇〇〇	同 卅二年三月
青森灣流船株式會社	二五、〇〇〇	同 四十年一月
味噌醬油合資會社	一〇、〇〇〇	同 卅二年十二月

室蘭大觀



福井三郎氏家庭(室蘭港海沿岸町)

附録 實業家畧傳

一七六

札幌區北七條西六丁目
眞鍋濱三郎氏

氏は徳嶋縣の人にして明治二十八年此田郡俱知安村に移り居を定めぬ當時本村は創業當初に屬し人跡更になく曠漠限りなきの大原野にして僅かに茅屋の點を見ゆるのみなりしも氏は前途に遠視し百難を忍んで刻苦耐久家族を勵して開拓に従事するもの多年辛酸具さに嘗め漸く家運を開き遂に村内屈指の資産家と稱せらるゝに至れり近年家庭教育上等の爲め札幌に轉居するに至りしも今や札幌に於ても資産家に列し金融機關の位置に立て地方經濟界に貢獻する所尠あからず

明治三十三年七月七日
明治三十三年七月七日
明治三十三年七月七日
増補二版

定價金壹圓



發賣元

著者 渡部 義顯
發行所 博文社
印刷者 吉岡 秀之
印刷所 同工會

北海道室蘭港札幌通六十四番地
最上谷書店
電話 二一十番
振替貯金九九六六番

大賣捌所

東京	南神田區 南神保町	有	斐	開	小樽	左	文字書店
同	京橋區 南傳馬町	目	黒	書店	同	左	官書店
同	日本橋區 吳服町	振替貯金口座	一八〇九番		札	富	貴堂
同	京橋區 出雲町	新	橋	堂	同	文	光堂
室蘭		福	本	書店	同	猪	狩正
同		魁	文	會	同	齋	藤弘文堂
同		小	島	大盛堂	同	鈴	木正實堂
同		白	鳥	新聞店	同	停	車場待合
同		青	森		同	停	車場賣店
同		東	京	上野	同	停	車場賣店
同		取	次	所	同	全	國各地書林

●廣告は各種營業上の機關に大なる勢力を有す即ち文明國の商業は所謂廣告の競争に
して後の米國の如きは特殊の學校を設けて新奇を練り好案を凝らし創作に従事し其廣
告料のみにても一ヶ年十二億圓餘に上ると云ふ豈に驚くべきにあらずや營業之業編纂
も蓋し時世之進運に伴はんとするにあり

營業之葉

室蘭大觀御購讀の諸士は營業
の葉を必ず御散見を願ひます

◎此書は室蘭大觀の出版を賛成せられたる各種營業者の芳名及營業項目を編纂せし
ものにして此の人々は營業上顧客に酬ゆる唯一の手段は薄利勉強を専一とするの方針な
るを謹告せんとするに在り要は御取引先の顧客に對し謝意を表すると共に未知の芳客
に對しては歡迎の微意を表するものなり

新刊豫告

樞密院副議長 伯爵 東久世通禧閣下題辭
 東京帝國大學教授 工學博士 廣井勇先生序文
 函館支廳長 河毛三郎君序文
 渡部義顯君著

函館大觀 洋裝四六版 寫真版挿入 五百餘頁

前北海道廳長官 男爵 北垣國道閣下題辭
 外題辭 題詩 題詠 序文 等
 渡部義顯君著

小樽大觀 洋裝四六版 寫真版挿入 五百餘頁

兩書の内容は其地方に於ける拓植事業の状況を實地に調査し之を一般に紹介するにあり高き戦後に於ける我國實業界の發展を期せんとせば速に北海道の拓植事業を完成せしむるに如かず

室蘭港本町七十三番地

發行所 興業館

屋質・貨雜・ 衡量度 書籍外内

最上谷次吉商店

札幌 函館 旭川 釧路 室蘭 網走 稚内

電話 二〇〇番
 振替貯金 九九六六番

最上谷次吉商店

は室蘭港札幌通に在り店主は最上谷次吉と稱し金澤市の産なり氏は沈著英慧明りに壯語を好まず其營業上に於ける方針も亦極めて熱心に秩序的に勵精するに在り現時學務委員所得稅調査委員等の名譽職員の外諸般の公共事業に興り世人に敬重せられつゝあり宜なるかな店頭常に觀客の絶ゆることなし

(著者誌す)

本社は室蘭を中心とし北海道南岸の開発を
主眼とする日刊新聞にして室蘭支廳及室蘭
町役場の公布式也

本社

膽振國室蘭港常盤町五番地

膽振新報社

(電話三三九番)

勇拂郡鵠川村

膽振新報鵠川支社

有珠郡伊達村西紋

膽振新報紋鼈支社

虻田郡虻田村

膽振新報虻田支社

◎船舶汽機汽鐘建築鑛山及鐵道用品

◎スパイキ、ボールド、チルド車輪製造専門

◎鑄鐵管一切其他修繕一式

室蘭港札幌通り壹番地

眞砂兄弟鐵工所

電話二二三〇番
電器(マサゴ)又ハ(マ)

◎和洋酒罐詰荒物

北海道室蘭港本町十二番地

◎食料品雜貨化粧品 商 西村商店

電話ニシ(又ハ)ニ

◎學校用品ランプ

室蘭港海岸町

福山藤吉工業部

營業品目

椅子。卓子。木地。指物。建具。ワニス。ラック。ペンキ。ウルシ塗り。其他西洋家具一式

(元丸十鐵工場跡)

◎西洋洗濯

◎あらひはり

◎色あけ

◎しみぬき

(化學應用)

●●●●●
東山郷 巾形
中角 巾形
天トハト 巾形
ソウトハト 巾形
廣ツバト 巾形
紳士 巾形
一文字 巾形
其他各種 巾形

(廢物利用)
フニオンマザル
獨逸アリザリル
洋服。トンビ。外套
被布織。絹質に限
り。毫も光澤を損せ
ず。新品の通り染直
し候

古帽子を御望の形に改造修繕仕り舶來新製
と異なる事なく且つ代價は新求の半額乃至
三四分の一にて出來仕候

◎廣島屋洗濯店

室蘭港母戀西町學校前

丸善貿易谷合名會社

室蘭支店

本店製出品

清酒醬油

北正宗。菅乃井
巴港一
長印

◎官塩元賣捌

◎札幌ビール 洋酒類

◎罐詰類難貨販賣

●●●●●
振替貯金口座四八一九番
電話略(一)ス七シ

預金

定期利息 年利 一ヶ年五分五厘以上
 一年未滿五分以上
 當座利息 日歩金八厘
 小口利息 日歩金壹錢

右ノ外割引貸付通知ノ預金代金取立荷爲替
 等精々御便利ニ取扱可任候

室蘭町札幌通百一番地
株式 北海道銀行
室蘭支店
 電話(一四番)

取扱

●室蘭支金庫(國庫)
 ●北海道室蘭支金庫(地方費)
 ●日本銀行代理店
 ●株式會社北海道拓殖銀行代理店

本支店所
 ●小樽(本) ●札幌 ●岩見澤
 ●旭川 ●増毛 ●稚内
 ●釧路 ●古平 ●岩内
 ●網走 ●江刺 ●室蘭



共成

室蘭港常盤町
 株式會社 **室蘭支店**
 電話番號 二百四十番
 電信番號(キ日セ)又(キ)

精米大販賣

精製の白米は品質撰精研量正確荷
 造最も堅固にして船車便に依り輸
 送を爲すも漏出するの憂ひなし
 精製の白米は純白無垢の精米にし
 て炊事輕易釜殖多量にして需用に
 大利益なり

當社

委託價摺は約定期日確實に精製保
 證すべく遠方より御委託にても
 同様に迅速に取扱ふべし

當社

精製の白米一ヶ年一千二百俵以上
 御購求並に摺入御注文の方に限り
 當社規定の俵敷前戻金配當可致候
 俱摺入札並に特殊の契約を以て
 賣上りするは相除申候

白井幸一

室蘭港常盤町
 大橋地所部
 電話五二番

- ◎博文館出版書籍雜誌
- ◎文部省編纂國定教科書
- ◎新年用美術繪葉書
- ◎郵便切手收入印紙
- ◎和洋酒文房具類
- ◎瀬戸物、硝子、釘、漬物
- ◎其他日用品一切

北海道名産

昆布菓子一式

- 昆布ようかん ●昆布茶
- 其他各種卸小賣

本店 伊勢屋九平

電話二一八番

代理店

- 室蘭港常盤町 小保方商店
- 室蘭港海岸町 町田商店
- 札幌區南二條 宮内商店
- 西五丁目(新川端)

室蘭港

表具師 高田猛雄

札幌通

高田猛雄氏は伊達男爵の舊臣にして明治初年伊達村に移住せられ爾來僑主のため内助する所少はからず近時室蘭の發展を達觀し居を札幌通に移して營業を開始するに至る氏は資性温厚著實にして慈愛心深く且つ社交に長ず營業向は誠實勉強を旨とす氏は亦武術に達す

(著者誌す)

◎仲立業

渡邊銳次郎

室蘭港常盤町
膽振新報社前

正義
中立

室蘭港本町

室蘭新聞

發行所 室蘭新聞社

◎土木建築請負業◎

室蘭港

河西庫治郎

常盤町

本 教 寺 横

◎酒類釀造業

因 大野子之吉

西紋階五十八番地



藥りや店主 伊藤兵一
一貫室 西紋階

兜服商 今東庄兵衛
有珠郡伊達村

同仁醫院 院長 今野清造
有珠郡西紋階

米穀雜貨商 有珠郡有珠村
海陸物産商 日高源治商店

◎内科

有珠郡

◎外科 守谷醫院

院長 守谷健之助
西紋階

◎眼科

有珠郡有珠

海荒物産商 今小松常藏商店

副業部 粗製沃度 鹽化加屋 製藥部

◎米穀 雜物 卸小賣

有珠郡伊達村

齋藤直衛

米穀 雜物 肥料 卸小賣

有珠郡伊達村 太刀川善五郎

猪狩正藥舖

有珠郡西紋階網代町

- ◎和洋藥種、賣藥
- ◎和洋壘詰酒類
- ◎諸罐詰煙草
- ◎紙 筆 墨
- ◎其他文房具種々

- ◎横濱生命保險株式會社代理店
- ◎北海タイムス、函館毎日新聞
- ◎其他諸新聞廣告取次及配達

札幌木材株式會社製材販賣所

建築材一切

〔十〕 坂本材木商店

電話(サ)又は(サカ)

松丸太類

室蘭港

水口商店

海岸町

●夜具綿類 ●布團 ●夜具類 ●綿類

●裏地類 ●其他附屬一切各種共卸小賣

●古綿直しの貸ふとん

室蘭港千歳町十九番地

下 廣瀨製綿場

室蘭港本町四百四十一番地

●疊建具製造販賣

●世帶道具一式

●諸國塗物雜貨類

⊕ 今野專三郎

室蘭港札幌通百三番地

北海道室蘭港

◎荒物

商小川勇吉

◎雜貨

札幌通山の上

染張物

⊕ 伊藤染物店

室蘭港札幌通

◎履物卸小賣

室蘭港常盤町

園 伊藤長兵衛
吉野屋

酒類

小樽區手宮裡町

〆五十嵐本店

味噌

室蘭港母戀西町

〆五十嵐支店

醬油

◎土木建築請負業

室蘭港大字札幌通百五十八番地

福岡仲藏

電話五三番

米味噌雜

穀卸小賣

△土岐九郎助

室蘭港本町四百七十八番地

木材業

有珠郡壯督村字久保内
田村木材部

香川鐵工場 塲主
香川清八

此田郡此田港

米雜穀荒物
雜貨商
砂金源助

此田郡向洞爺

◎旅人宿作場藤太

蛇田郡真狩村字三ノ原

◎旅人宿廣岡ハル

此田郡真狩村字三ノ原

土木建築請負
業兼木材商人
矢野増太郎

此田郡留壽郡

此田郡留壽郡

旅

田苗半次郎

館

に於ける

建築請負業
今更に業務
擴張仕り熱練
る職工數名
増聘仕候間多
少に拘御用
命仰付被下度
御願ひ申上候

齋藤 藤太 齋藤 藤太
齋藤 藤太 齋藤 藤太
齋藤 藤太 齋藤 藤太

漁業
有珠郡伊達村大字黄金藥
高畑丑五郎

木材業
有珠郡
橋堀乙五郎

壯督村字久保内

荒物雜貨
旅館兼業
有珠郡壯督村
安西岩吉

瀧壽之 星野亭

膽野國有珠郡壯督村瀧之下

旅人宿 稀玉旅館

有珠郡壯督村

水車業 手代木要藏

有珠郡壯督村

應御注文 藤川木工場

有珠郡壯督村字久保内

土木建築請負業 角田勘吉

有珠郡壯督村字久保内

米穀荒物
和洋雜貨
有珠郡壯督村字久保内
下村郷助商店

◎旅人宿 秋田屋
◎下宿 館主 千葉熊吉

室蘭港本町七十五番地

室蘭港

◎時計商 寺島好助

並に修繕 札幌通

室蘭港札幌通炭礦會社前

橋場鐵工所

所主 橋場新七

◎糞尿汲取請負

合名 室蘭清潔會社

◎其他一切掃除請負 室蘭町大字札幌通二百五番地

室蘭港札幌通一番地

スバイキ
ポールト
リベント
専門中本鐵工場

場主 中本菊三郎

室蘭港大字給鞆町

和洋酒類
味噌醬油
小醬物類
米穀其他種種
雲丹佃煮製造販賣

長近藤長吉商店

流行形履物
柳行李各種
長岡商店
室蘭港千歲町

▲下駄 ▲足駄
▲雨傘 ▲草履
▲銘茶
◎荒木履物店
室蘭港札幌通百廿七番地

漆器類
箆器類
松並支店
室蘭港札幌通
函館區西川町 松並本店

吳服太物
洋太物
×北村支店
室蘭港札幌通

印ゴム
彫刻
◎諸官廳御用
石川印舖
室蘭港札幌通

母戀公園
竹山喜左門
室蘭港母戀

諸建築和洋塗物受負
◎其他塗物何品共總て御好に應ず

廣瀬由吉

室蘭港海岸町

本道活版界の鼻祖

室蘭港海岸町

◎活版印刷
◎和洋製本
◎印刷鮮明
室蘭活版所

野副又六
電話一二二番

本道活版界の鼻祖

◎内科
◎外科

熊谷醫院

院長 熊谷 讓

此田郡辨邊市街

大友醫院

内科 院長 大友竹治郎
外科

此田郡市街

和洋小間物
書籍類

此田郡字留壽郡
齊藤金太郎

電話(カクサ)又ハ(ナ)

眞狩太農場
管理 者
村山 永藏

◎業負請◎

此田郡
關根文七
辨邊港

◎質屋營業

横山東兵衛

此田郡字留壽郡

電話(ヨコ)又ハ(ヨ)

鑛泉旅館

△ 藤牧吉左衛門

此田郡眞狩村留壽郡

明治三十六年發見

一慢性貧血症

一熱性病の快復期

一慢性癩癩質斯

其萬病に有効なること醫師の證明による一
度浴して試み給へ

◎和洋酒

其他日用品一式

◎支店

店主 菊池萬太郎

此田郡狩太村新市街

室蘭港札幌通
松永時計店

和洋酒味噌
醬油 錫詰

中谷商店
室蘭港札幌通百三十九番地

こうじ製造
卸小賣
室蘭港常盤町
中村現一郎

土木建築
請負業

林繁樹
室蘭港本町四十一番地

美術業
室蘭港本町七十五番地
江藤鋼太郎

◀真寫▶

深川寫真館
室蘭港母戀

北海道室蘭港海岸町
店主 協田原太郎
脇田商店

新古商
和洋服

利青木支店
室蘭港西條市街

室蘭港西條市街
跡鐵工 財前雪男

免務省 産婆

東京大日本産婆學校卒業
大曲壽恵子
室蘭港常盤町八番地

米穀商
室蘭港札幌通
寺尾榮三

旅人宿
寺澤寺吉
室蘭港西條市街

●木綿織物製造所 ●引地染織工場

●特許鹿内式織機特約販賣所

場主 引地平兵衛

營業科 目
正紺地織木綿
鹿内式織機並に
附屬品一式
染類
御詔系
中小染
色揚直
形紋染類
しけ

農家に於て其繁榮を希はば宜しく副業に力を盡さざる可からず然るに本道農家の子女多くは冬季閑散に際せば徒食して遊惰に流るゝを常とす引地氏は是を慨き機械を傳習して遊惰に流るゝを常とす引地氏は是を慨き女の救済を資せんと三十二年工場を設け教師を聘して専ら其傳習に努めらる今や鹿内式織機十餘臺を備付け數多の傳習生を養成し一ヶ年の製出高二千五百餘反に及ぶ三十九年伊達村網ヶ町に其販賣店を開きたるに製品優良にして價格も亦低廉なるを以て頗る好評を博せり同年北海道物産共進會に出展して褒賞を賜はる近時色染めを開始したるに其成績甚良好なりと傳習生には衣食を給與し三年以上傳習を受けたる者には鹿内式織機一臺を與へ短期の考には無料にて傳習すと云ふ又鹿内式織機は使用簡便にして十二歳以上の者は二三ヶ月練習せば充分にて價格も低廉なれば家庭用としては最良のものなりと(著者誌す)

高等旅館

停車場前

旭

俱知安の

ホテル

富士

三吉屋

三吉屋

停車場前

三吉屋
青山
豊吉

俱知安

最上 釀造 醬油 鶴龜壽 宮

最上 龜味噌

幌別郡幌別村市街地
宮武醬油釀造部

宮武藤之助

● 吳服太物

● 雜貨米穀

● 金 物

● 硝 子

● 陶 磁 器

● 度量衡類一式

● 羽森 甚兵衛

勇拂郡苦小牧村

北海道有珠郡伊達村

木材業 早瀬出張所

札幌區大通東二丁目二番地

本店 店主 早瀬吉松

◎陸海軍御定宿

◎商人御定宿

北海道有珠郡

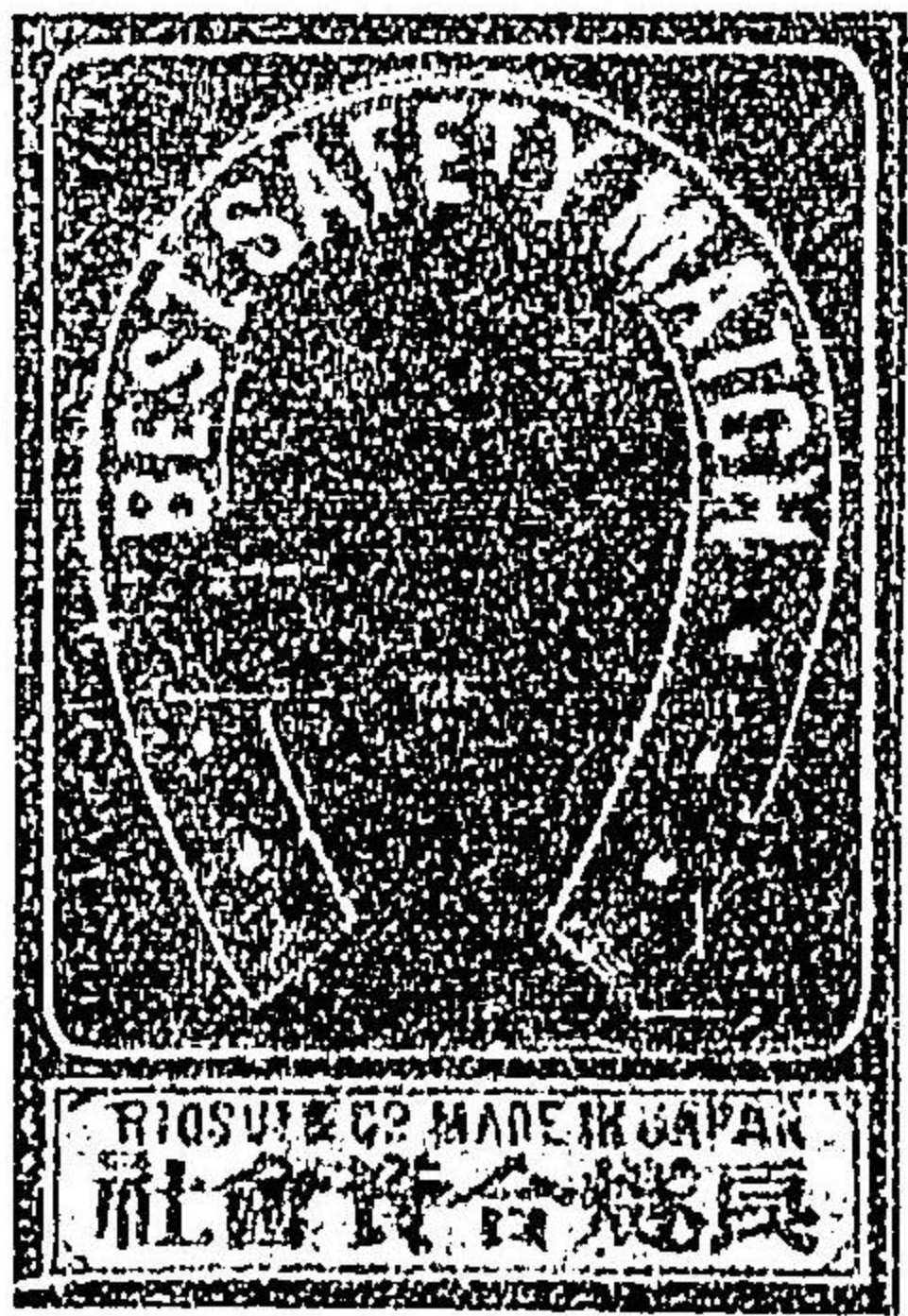
可阿部旅館

西紋隘網代町

神戸市

製造元 良燧合資會社

燐寸細軸



北海道
一 手 捌 道

室蘭港千歲町

吉田出張店

竹内安吉

電話 二二三四番
電路 (ヨシタ) 又ハ(キ)

●子ペラ寫眞

●プラチナ寫眞

●ピーオーピー寫眞

●白金タイプ寫眞

●プロマイド引伸寫眞

等各種御注文に應ず可い候

室蘭港札幌通

小間物店裏

佐藤寫眞館

佐藤寫眞館は札幌通の中央に在り館主佐藤氏は各地を歴遊したるを以て其の技術は巧妙を極む且つ客に對して親切なれば開業日尚ほ淺きも頗る好評を博しつゝあり氏は温良にして公共心に富む好人物なり(著者誌す)

勇 拂 郡

漁業 進藤直雄

苦 小 牧 村

●土木建築請負業

田中丑造

勇拂郡苦小牧市街

山田旅館 苦小牧市街 山田久治

苦小牧 藤佐 吳服洋物店



●土木建築請負業

薄田徳藏

札幌區南五條西二丁目

札幌旭ホテル

札幌停車場通南一、西四、

迎送客人馬車馬橋無料

(電話四四六番)

札幌停車場通南一條西四丁目角を入る所に二層樓上千客萬來繁昌しつゝあるを旭ホテルとす當館の位置は商業界に有名なる南一條南二條南三條其他著名の商家、拓殖銀行及北海道銀行、北海道商業銀行其他郵便局、電信局、電話局、北海道廳、區役所、警察署、裁判所、稅務監督局、鐵道管理局等に近邇するを以て獨り實業家の宿泊に便なるのみならず停車場通なるに據り一般旅行者の投宿又は休憩に便利なり而して館主遠藤金助氏は資質温順にして能く家業を守り其營業上に就ては諸般改善に意を注ぎ新鮮なる菜果潑瀾たる鮮魚を食膳に供し時世の進運に遅れざらん事を期し且つ當館の女中は孰れも愛嬌好く御世辭に富むもの決して輕薄にあらず赤心にあるなり而して汽車發着毎に停車場に馬車を驅て客人を迎送する等本道未だ曾て見ざるの勉強を爲し所謂搔き所に手の届くの感あらしむ他館に比し一種の特色として誇るに足る故に客人の出入日夜絶間なく歲に月に顧客倍蓰の盛況なり (著者志す)

青森鐵道指定旅館

青森市大町	中島本店	(電話二十六番)
同 新	中島支店	(電話二十七番)
青森市濱町	鹽谷本店	(電話五十四番)
同 安方町	鹽谷支店	(電話五十五番)
青森市濱町	中島支店	(電話二十六番)
同 安方町	中島支店	(電話二十七番)
同 濱町	中島支店	(電話二十六番)
同 濱町	中島支店	(電話二十六番)

青森濱町一丁目
大★淡谷商店
 回漕部。賣炭部 電話一〇七、四一〇番

海陸接續貨物取扱 青森市安方町
 鮮魚運送は特別勉強
 悉製造味噌特約販賣
陸送店
 電話口ア(又ハ)ア

鎌先温泉は古來著名の効驗ある温泉なり

宮城縣刈田郡鎌先
旅館 一條一平
 温泉主 白石停車場前

●温泉主治効能●
 ▲金瘡 ▲湯火傷 ▲挫傷 ▲凍傷 ▲打撲 ▲脚氣
 ▲痲瘋 ▲瘡癤 ▲痔漏 ▲神經痛 ▲疥癬 ▲疥毒 ▲疥癩
 ▲子宮諸病 ▲淋病 ▲先導温泉は元日本鐵道本線白石
 石驛下車し停車場より一里三十丁の所に
 あり車賃三十錢内外なり

青森 函館間定期船
 神龍丸 青森出帆毎日午後七時
 繪柄丸 青森市新濱町

青森汽船株式會社

●一般船舶代辨業

●青森、函館間毎日定期船出帆

●青森、室蘭、紋鹽間毎日定航

●其他兵庫、大阪行貨物は迅速御取扱申候

噴火灣汽船元扱所

青森汽船株式會社代理店

正 會社 **堀谷回漕店**

青森市新濱町

電話 一七〇番
 電報ホリヤ(又ハ)ホ

青森市安方町

専味贈發賣元
酒類・雜詰商
村本支店

電話二百卅番

青森市博勞町

亨
味贈
製造元
村本本店

電話四百十一番

青森市新安方町

製材業 村本製材所

電話三百卅六番

◎**米雜穀**
肥料委託販賣

青森市安方町百七十五番地

◎**今村勝三郎**

電信略號イマ

電話二一六番

◎**米雜穀委託販賣**

◎**味贈製造**

◎**卸小賣**

◎**奈良岡茂作商店**

青森港大町
電話四九五九
電界ナラモ(又ハ)ナ

◎**米雜穀商**

◎**奈良左市**

電略「ナラ」又ハ「ナ」
電話三百三十八番
青森港米町

營業目
藥細工品一切之賣買
米雜穀・味贈・肥料
海產物雜貨委託販賣

◎**製產株式會社**
劍勝興業株式會社
石炭販賣所

電界(〇ツ)又ハ(〇)
電話十八番

鐵道運送業
船貨物



青森市停車場前
西谷運送店

電話三三五番
電界ニシヤ(又ハ)ニ

國館停車場前
西谷函館支店

電話一〇二二番
電略ニシヤ(又ハ)ニ

海産物
問屋

青森市新安方町魚市場内
今坂上五郎兵衛

(商號沖五) 電略(オキ五)又(ハ一五)
電話一五五番

青森銘産

- 養老飴
- 翁飴
- 櫻飴
- 五色飴
- 林檎飴

青森市濱町五丁目
久保儀兵衛

電略(ク)又(ハ)夕ホ
電話一一百十番

米穀卸小賣商

青森港米町二番甲
木村熊吉

電話六〇五番



醸造元 **長谷川茂吉**

醸造元

電話六〇五番

石狩石炭株式会社
新夕張炭販賣代理店

青森市新濱町一丁目



磯野青森支店回漕部

電話十一番、百四十三番
電略(イソ)又(ク)一

一 繩巻吸葉工品一切卸販賣
一 米雜穀海産物委託
一 味噌發賣元



青森物産商會

青森市濱町一丁目

● 第二回全國特産品博覽會有功銀牌受領

● 日本製産品共進會進歩銀牌受領

● 第十回五二會品評會有功銀牌受領

● 第廿四回津輕物産品評會一等賞受領

青森縣酒造組合聯合

● 第一回清酒品評會一等賞受領

銘酒 花正宗

其他新酒及び純粹粕取焼酎燗酒樽詰等は御
注文に依り精々廉價を以て販賣可仕候

青森縣東津輕郡油川港

醸造元 **三上重郎兵衛**

振替貯金口座二四二番
電話百貳拾壹番
電略(イ)又(ハ)ミカミ

室蘭港

● 鐵道貨物積卸業

共同組 酒井惣右衛門

● 運送業

氏は多年運送業に従事し市内は勿論一般取
引先に於ける信用厚く且つ家業に勵精なる
を以て家計年と共に富裕となり同業者中新
進氣鋭の人物として重きを擔ひつゝあり

● 諸官廳 御用達

● 各會社 御用達

● 和洋紙文房具類

● 茶 各種

● 和洋蠟燭各油類

雜貨商



室蘭港海岸町一番地
東政兵衛支店

電話四六番電略(コン)又(ハ)アズマ

室蘭港母戀市街

武内寫真館

館主 武内正太郎

館主は天資温良にして營業に勉強且つ公共心に厚く開業以來顧客の出入多きは技術の熟練なるを業務に勉勵なるの結果にして現に室蘭大觀第二版掲載の母戀市街全景及成徳小學校等の寫真は竹内氏の寄贈に係るものなり

御室蘭港

料玉廻家

理札幌通

電話二五九番

建築請負師

今野清四郎

室蘭港本町

◎新世帯道具一式
◎古雜品高價買入所

室蘭港濱町郵便局角

念山田忠作

▲古着、仕立物、布團
▲洋服、外套、毛布類

◎古田商店

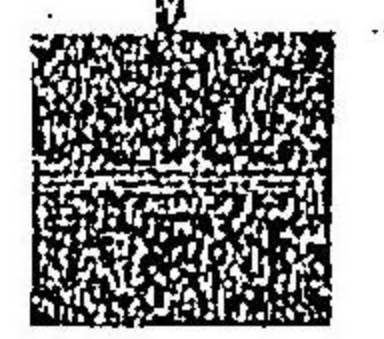
室蘭港濱町三七番地

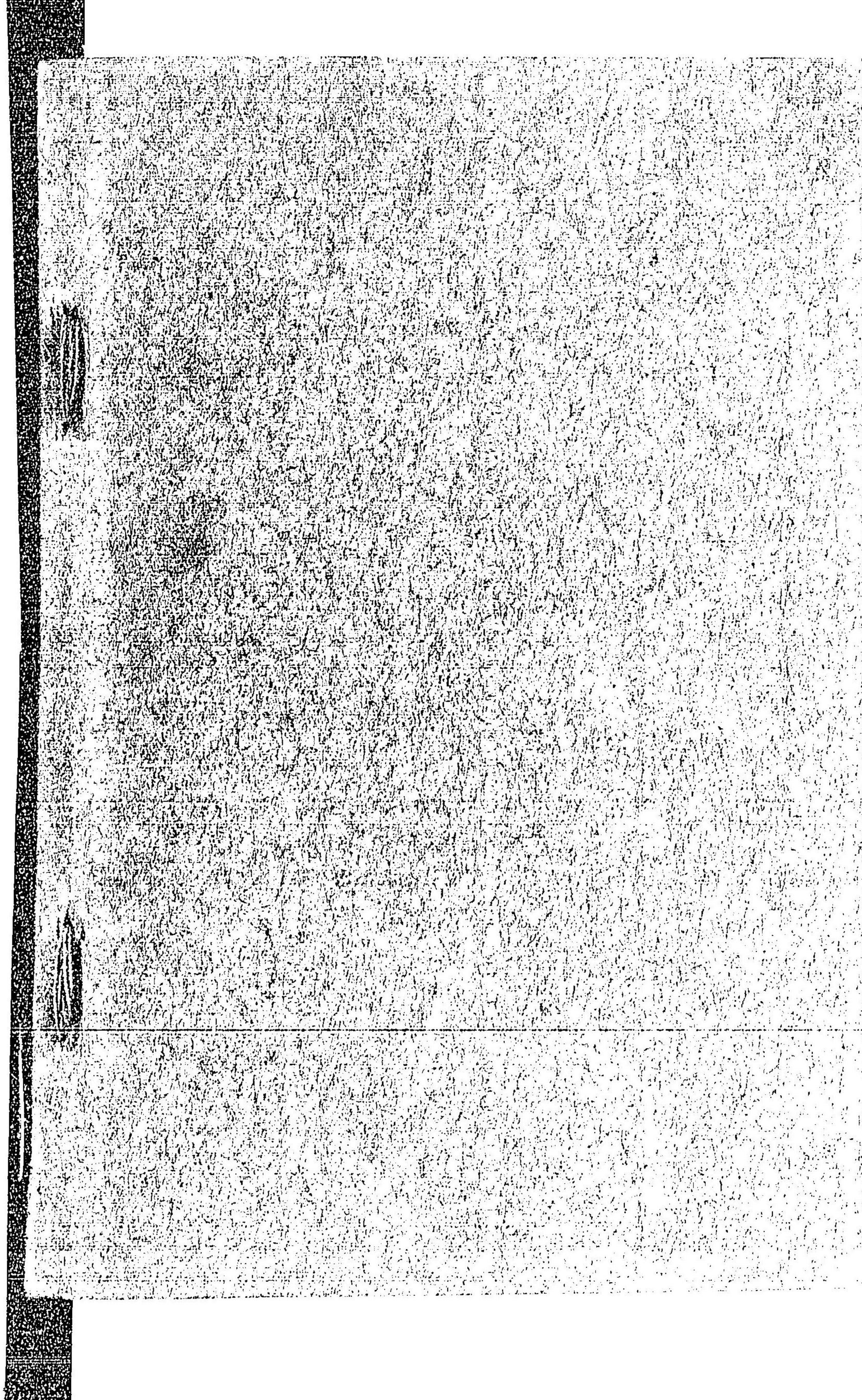
室蘭港海岸町

銃砲火藥 室蘭銃砲火藥店

主任 石川幌之助

264
174





023292-000-9

特20-385

室蘭大觀

渡部 義顯 / 著

M43

ADC-0166

